

【資料9】

社会実験の 検証結果・方向性まとめ

[増水時対応・タイムライン]

- ・増水時の撤去、再設置に多くの労力、継続実施困難
- ・撤去作業を軽減する仕器の改善、残置可能な固定方法、撤去ルールなどを再考

[定点カメラ設置]

- ・定点カメラ(動画撮影、高解像度)を整備

[活用プログラムの実施]

- ・活用ニーズあり
- ・日陰必須
- ・電気最小限必要
- ・その他設備現状維持
- ・社会実験継続実施

[駐車場設置]

- ・15台で適正
- ・継続運用
- ・イベント時は主催者運用

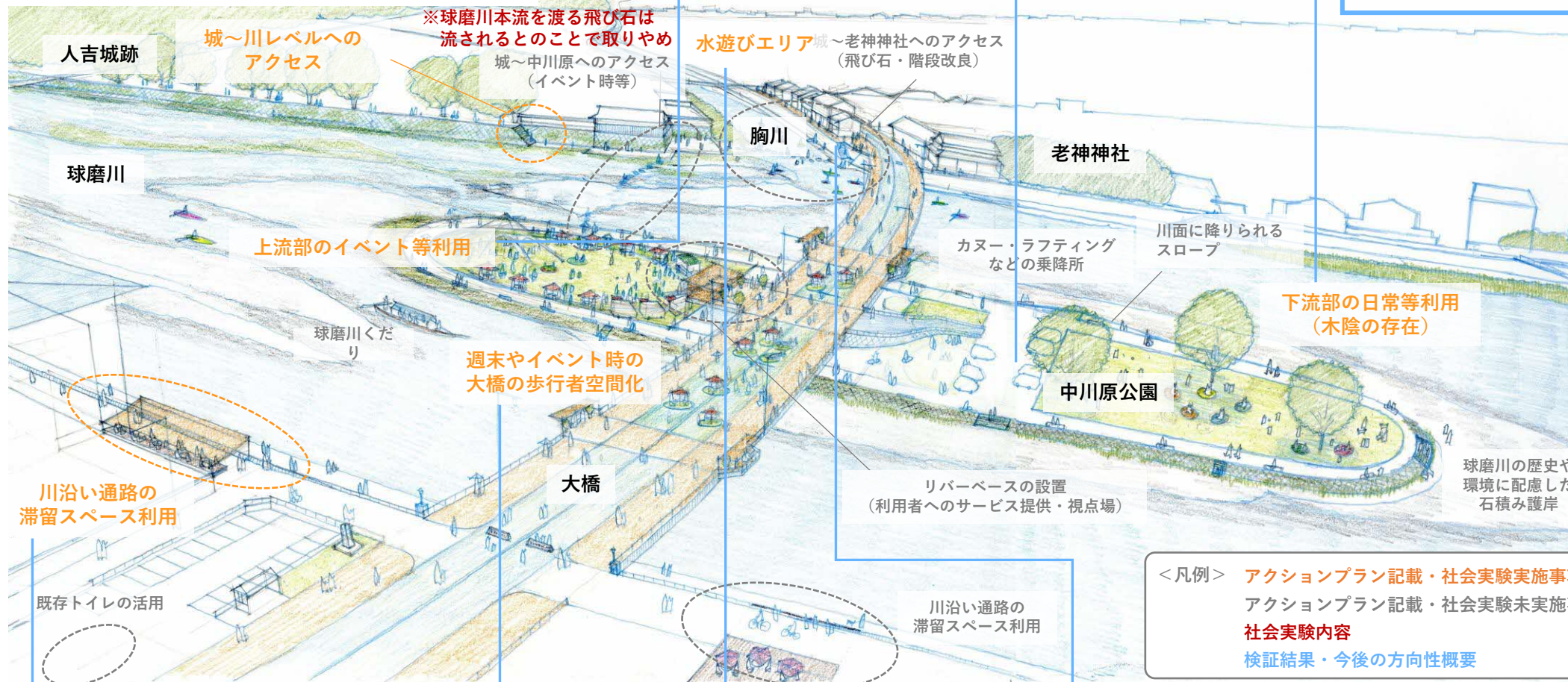
[滞留空間設置]

- ・本設の将来イメージを更新(特に日陰、大橋下改善)
- ・増水時対応を踏まえた設置物、量の検討

[あかり]

- ・中川原公園内に照明整備必要
- ・大橋橋上のスポットライト、手すり照明、橋梁ライトアップは一定効果あり
- 整備を検討

[中川原公園・大橋のイメージ(アクションプラン)]



[球磨川テラス(右岸)]

- ・継続検討
- ・通学路のため自転車通行との共存方法要検討

[大橋活用]

- ・場所価値大、これまでにない体験
- ・交通規制負担大
- ・周辺交通影響少
- 担い手発掘・簡易活用検討

[安全講習・川遊び]

- ・今後も継続実施
- ・体制、場所要検討

[球磨川テラス(左岸)]

- ・常設化(歩行者天国化、滞留空間等設置)を目指す
- ・活用制度設計が整うまで社会実験期間延長

[MIZBERING 人吉会議]

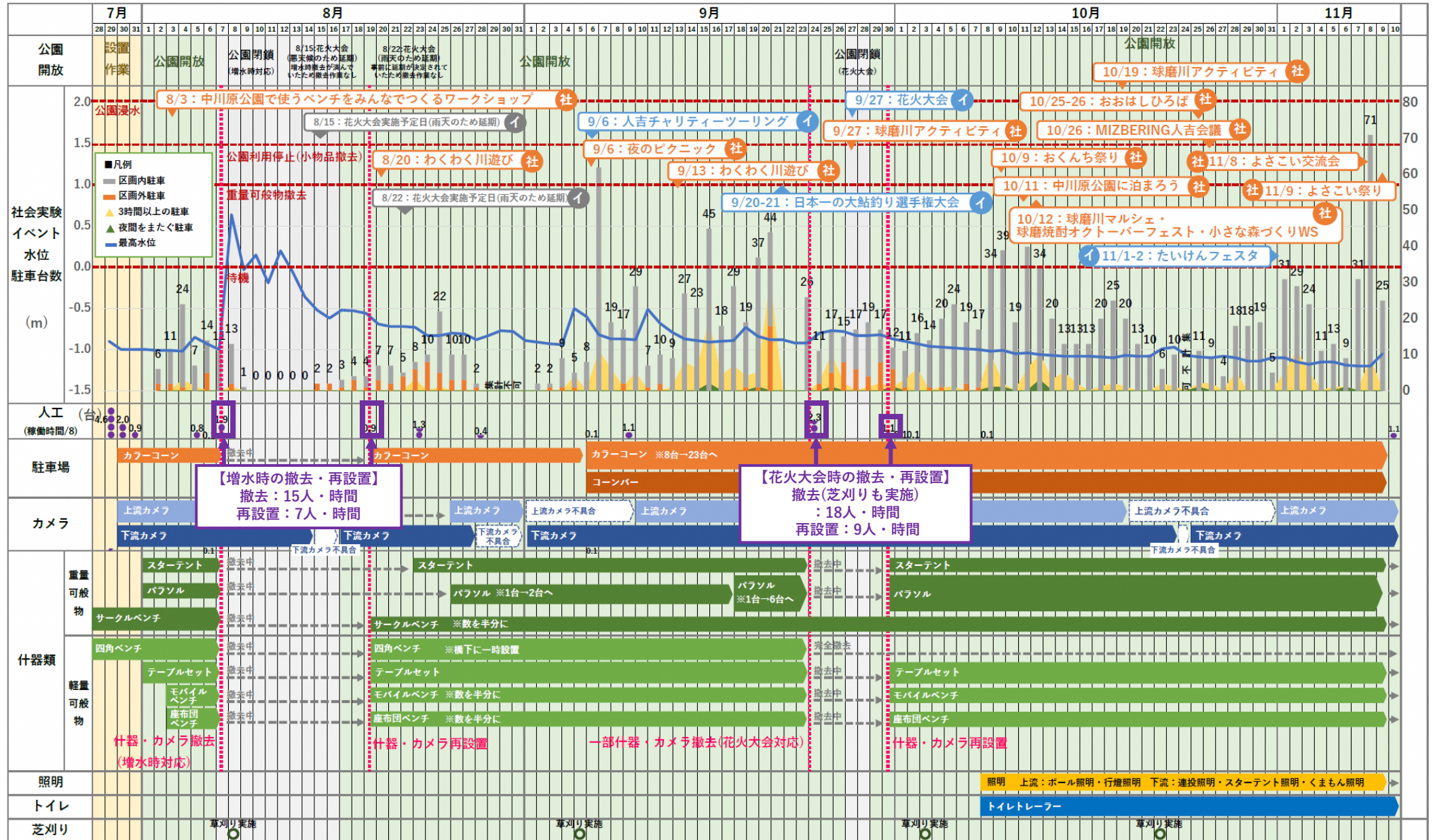
- ・民間担い手、市、県、国で連携して、球磨川流域の地域循環に関わる取組を継続して検討・実施

○中川原公園の社会実験実施内容・時系列整理

- ～5/11 公園閉鎖（市の復旧工事）
- 5/12～7/31 人への公園開放 8:30～18:00（車両進入禁止）、毎日夜間公園閉鎖
- 8/1～11/9 車両乗り入れも含めた24時間公園開放、什器類設置、カメラ設置、増水時対応、民間活用プログラム実施、照明・トイレトレーラー設置
- 11/9～ 公園閉鎖（国の護岸工事）

【中川原公園 社会実験運用一覧】

社 社会実験 イベント



① 駐車場利用

背景・目的

- ・水害以前は、中川原公園の利用者以外の駐車も多くあったということだった。
- ・そこで、将来の方針として「中川原公園は原則車両進入禁止（自転車を除く）／公園利用者のみ可」と仮で設定して運用することで、①日常時（一般車進入可能）における不適切利用の排除・駐車台数の把握、②イベント時の運営者による駐車場利用の円滑・安全な運用、③イベント時の隣接駐車場の円滑な運用、④公園への車両進入禁止の運用、⑤検証の手順を検証した。

社会実験内容・検証項目

- 日常時：一般車進入・駐車可能(公園利用者のみ)15台限度、常駐なし
 イベント時：一般車進入・駐車不可、周辺駐車場案内(札の辻・城跡駐車場)
 イベント運営者の関係者の車両のみ進入&駐車可
 イベント運営者の責任で進入車両の台数、駐車誘導を行う



<日常時>



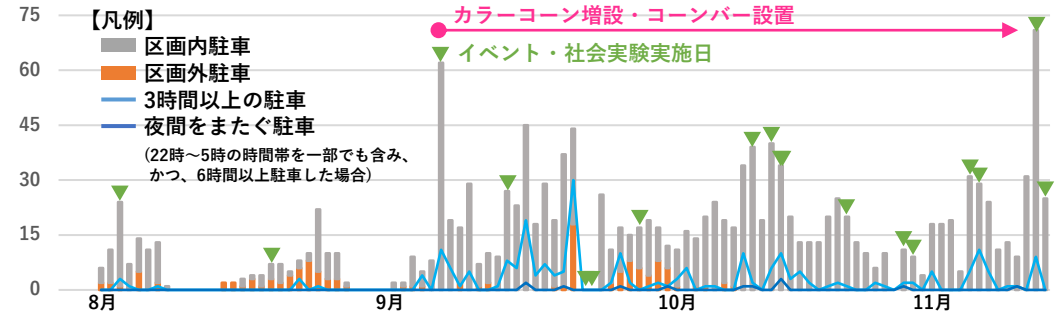
<イベント時>



検証結果

- 台数 ・通常利用で一度に15台以上駐車される日はない。
- 不適切利用
 - ・9/6のカラーコーン&コーンバーを設置する前は、毎日数台の車両が駐車区域以外に停めていたが、設置以降はほぼ駐車枠内に停められている。
- イベント時利用
 - ・イベント時には、主催者側でルールを決めて安全な運営を依頼した。その結果、多くのイベントについて来場者用の駐車場は別で確保された。
 - ・来場者の駐車を認めている催しは、①人吉チャリティーツーリング、②夜のピクニック、③くまがわアクティビティ、④中川原公園に泊ろう。②は一部車が交錯する状況となったが、その他も含め大きな問題はなし。
 - ・イベント時、中川原公園から駐車場が近いほうが良いという意見はあったが、臨時駐車場を設けることで大きな問題はなかった。
 - ・ただし、臨時駐車場以外の駐車場に停める方もおり、今後の課題である。

一日ごとの駐車台数のグラフ



- ・今の利用方法では、台数は15台で妥当
- ・不適切利用の抑制は現状の方法で問題なく、監視システムは必要なし
- ・イベント時利用の運用は今回の運用で問題なく、スロープの交錯を避ける誘導は必要

今後の方向性

- ・今後も駐車場は15台で継続運用する。
- ・不適切利用防止策はカラーコーン&バーで継続運用する。ナンバー認証などのシステムは導入しない。
- ・イベント時は主催者にルールを委ねることで継続運用。来場者の車両進入を認める場合は、車両・人と車両の交錯を避ける誘導を行うルールとする。

②増水時対応・タイムライン

背景・目的

・中川原公園は水害後治水上の理由で2mの盤下げを行ったことで、年に1-2回は浸水する想定である。増水時は、公園の施設や注意喚起の実施、原則ベンチ等の什器やトイレトレーラーといった設置物の撤去をしなければならない。
 ・そこで、球磨川の水位に応じた対応・撤去ルールを定め、適切な運用ができるか検証を行った。

○社会実験内容・検証項目

球磨川の水位

①球磨川の水位が1.50mに達した時点で公園ゲートの施設を行い、立ち入り禁止する。

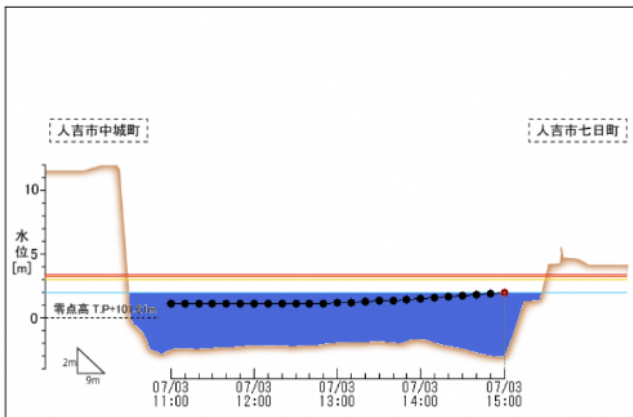
水位観測地点：人吉

気象庁による大雨に関する注意報・警報

- ①大雨注意報が発令された場合、施設の準備を行い、その時点で「公園利用者および駐車されている車の所有者」に対し公園から離れるよう声かけを行う。
- ②大雨警報の予想日および発令された場合、ただちに公園ゲートの施設を行い、立ち入り禁止する。

(参考)令和5年度公園が浸水した際の水位データ

人吉



- はん濫危険水位 3.40m
- 避難判断水位 3.20m
- はん濫注意水位 3.00m
- 水防団待機水位 2.00m

約50cmあがるのに1時間程度

観測時刻	水位(m)	増減
2023/07/03 11:10	1.13	→
2023/07/03 11:20	1.12	↓
2023/07/03 11:30	1.12	→
2023/07/03 11:40	1.11	↓
2023/07/03 11:50	1.10	↓
2023/07/03 12:00	1.10	→
2023/07/03 12:10	1.09	↓
2023/07/03 12:20	1.08	↓
2023/07/03 12:30	1.09	↑
2023/07/03 12:40	1.10	↑
2023/07/03 12:50	1.12	↑
2023/07/03 13:00	1.15	↑
2023/07/03 13:10	1.20	↑
2023/07/03 13:20	1.24	↑
2023/07/03 13:30	1.30	↑
2023/07/03 13:40	1.35	↑
2023/07/03 13:50	1.40	↑
2023/07/03 14:00	1.47	↑
2023/07/03 14:10	1.55	↑
2023/07/03 14:20	1.63	↑
2023/07/03 14:30	1.74	↑
2023/07/03 14:40	1.82	↑
2023/07/03 14:50	1.89	↑
2023/07/03 15:00	1.95	↑

人吉観測所の水位で2.0m程度で浸水する



写真：公園浸水(R5.7.3 15時16分時点)

○各種物品の撤去タイムライン

	各種物品	撤去車両	収納場所
0m 待機体制 ※大雨になりそうな予報の場合、早めに撤去判断			
1m (5~10回/年) 大規模可搬物撤去	・スターテント ×1	・民間 軽トラ	・市倉庫
	・トイレトレーラー ×1	・市 2tトラック	・市駐車場
	・サークルベンチ ×2	・市 2tトラック	・城跡屋外
	・木製パラソル ×6	・市 2tトラック	・多間橋
1.5m (1~2回/年) 小規模可搬物撤去 公園利用停止	・四角ベンチ ×0	・民間 軽トラ	・城跡屋外
	・モバイルベンチ ×9	・市軽トラ	・城跡屋外
	・木座布団 ×8	・民間 軽トラ	・民間倉庫
	・看板、カーコーン ×2、8	・民間 軽トラ	・民間倉庫
	・カメラポール ×1	・民間 軽トラ	・民間倉庫

・スターテント

テントの軸を倒しつつ軸を分解/テントをたたむ/アンカーを地面から引き抜く

・サークルベンチ ボルトをはずす/木材にばらす

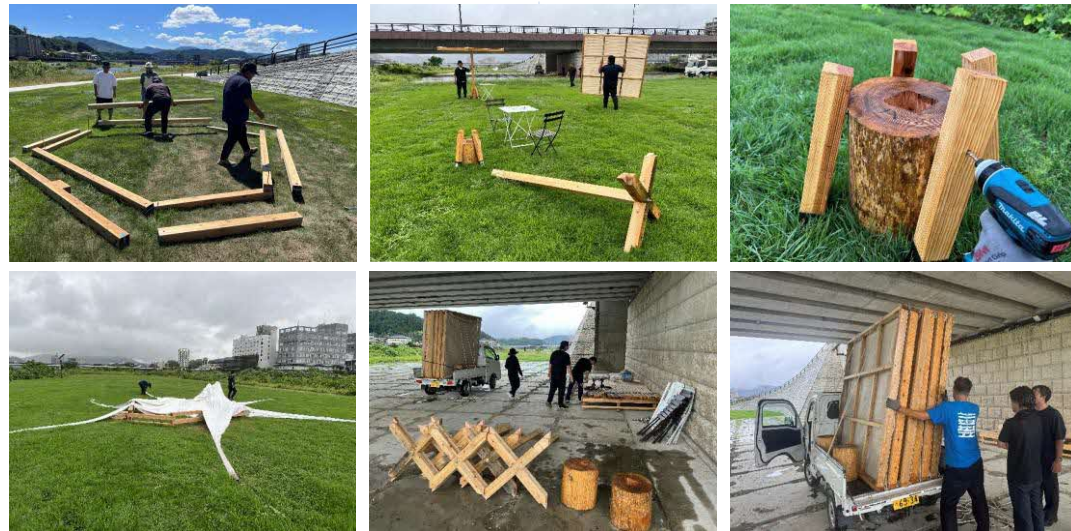
・四角ベンチ そのまま運搬

・パラソル

屋根と軸をばらす/軸と基礎丸太をばらす/基礎丸太とアンカー木材をばらす/アンカー木材を地面から引き抜く

・トイレトレーラー

市役所の牽引車を使い牽引免許を持つ担当者が運搬

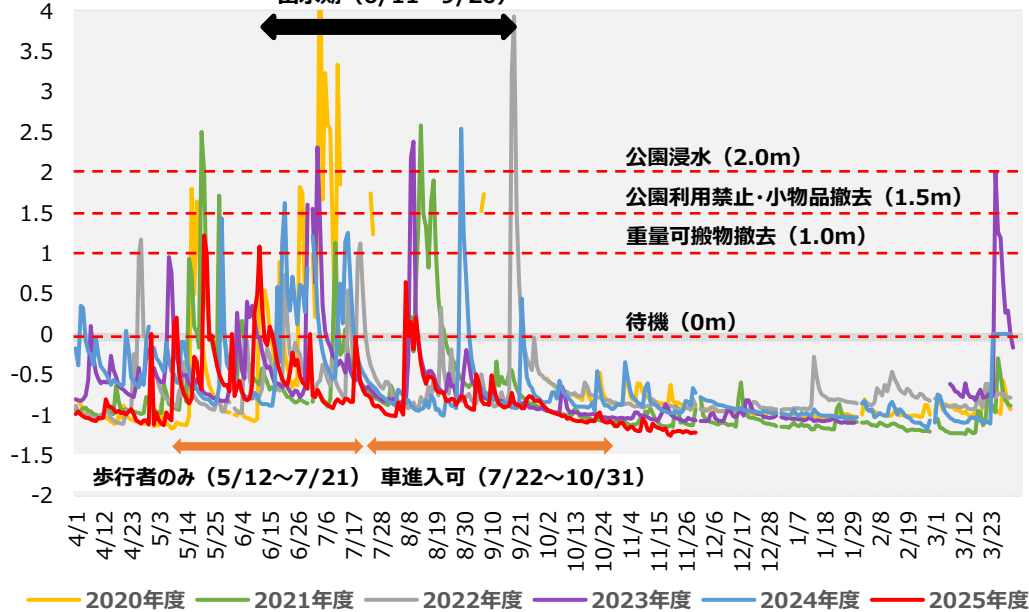


この設置物であっても時間が足りず、重量可搬物、小物品の撤去の作業を軽減する什器の改善、残置可能な固定方法、撤去ルールなどを再考する必要がある。

②増水時対応・タイムライン

球磨川／人吉観測所水位データ（1日内のMAX水位）

出水期（6/11～9/20）



該当日数 (該当回数)	待機 0≦	重量可搬物 撤去 1.0≦	公園利用禁止 小物品撤去 1.5≦	公園浸水 2.0≦
令和2年度	(6回) 31	(7回) 19	(7回) 15	(2回) 5
令和3年度	(8回) 28	(5回) 11	(4回) 6	(2回) 3
令和4年度	(6回) 15	(4回) 5	(1回) 3	(1回) 2
令和5年度	(7回) 59	(5回) 9	(4回) 6	(3回) 4
令和6年度	(9回) 33	(5回) 8	(2回) 2	(1回) 1
令和7年度	(7回) 13	(2回) 2	(0回) 0	(0回) 0

○検証結果

・水害後、最近6年間の水位データ（人吉観測所）を整理し、今年度、増水時対応で設置した以下の4つの段階について、過去に遡り1年に何日対応が必要な日数があるかどうかを推察したところ、今年度（令和7年度）はこの6年で最も水位が低く、撤去の必要な場面も少なく、公園も浸水していないことがわかる。

- ①0m 待機（散歩道路浸水）
- ②1m 重量可搬物撤去
- ③1.5m 公園利用停止（小物品撤去）
- ④2.0m 公園浸水

- ・例年のデータを鑑みると、おおよそ待機10回弱、重量可搬物撤去5回、小物品撤去・公園利用禁止は数回、公園浸水も年に1回以上発生することが想定される。
- ・今年度においては、市都市計画課、社会実験担当のHBP、民間人材によるチームで対応するとしたが、毎日24時間監視をしつつ、増水時に緊急対応するために待機している勤務形態での人材確保は難しかった。
- ・今年度は増水時に1回、花火大会開催時に1回、撤去・再設置作業が発生した。増水時は8/7に撤去・8/19に再設置、花火大会時は9/24に撤去・10/1に再設置を行った。前ページ右上に記載の什器等を撤去・再設置するにあたり、1回あたり27人・時間かかった。（9/24・10/1）

今年度は例年と比較して水位の上昇が少なく、増水時対応が必要となる回数は少なかったが、撤去・再設置時に多くの人員、労力がかかった。滞留を促進する目的で設置した分解可能な重量可搬物であるパラソル・サークルベンチ・スターテント、トイレトレーラーなどの撤去・運搬に4～5人体制でも2時間以上かかり、同様の什器、撤去ルールでは今後持続することは困難との判断。

○今後の方向性

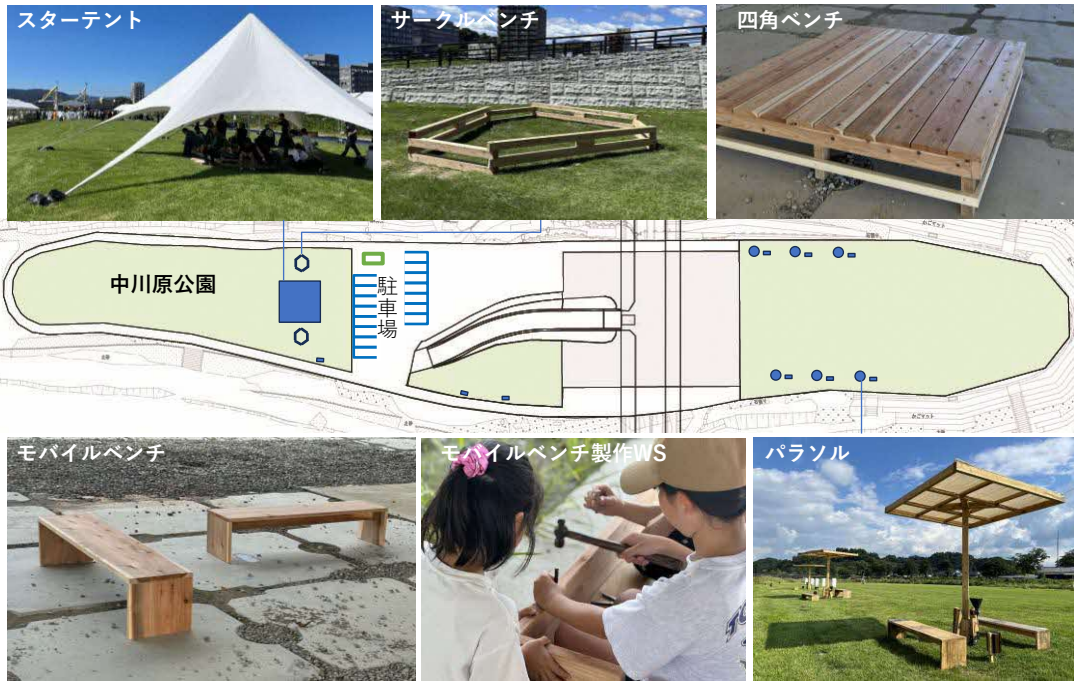
- ・重量可搬物、小物品の撤去の作業を軽減する什器の改善、残置可能な固定方法、撤去ルールなどを再考する。

③ 滞留空間設置

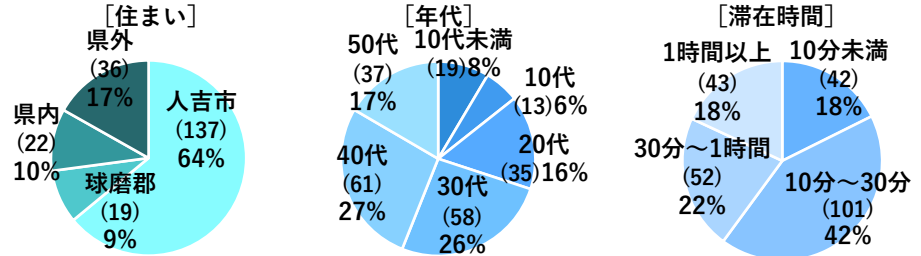
背景・目的

・中川原公園は水害後に復旧工事が実施されたが、治水上の理由でベンチや日陰といった滞留空間は一切設置されていなかった。
 ・そこで、中川原公園の滞在・利用を促進するため、増水時対応も踏まえながら各種滞留空間を設置して、利用ニーズや什器の量等を検証した。

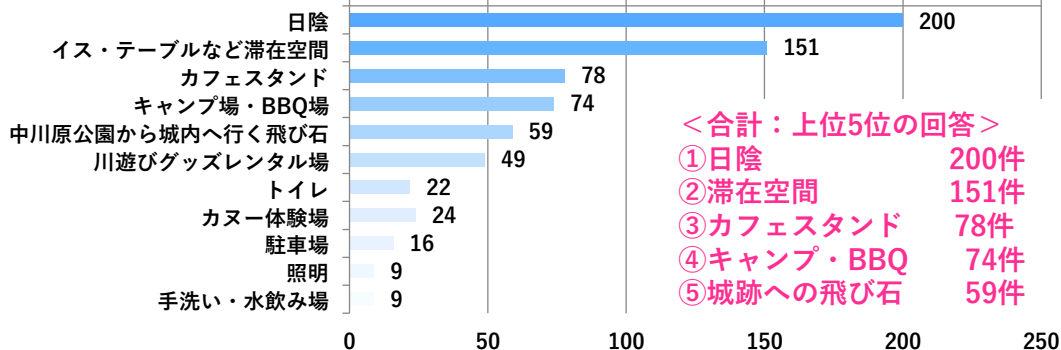
社会実験内容・検証項目



検証結果 【来場者アンケート調査】 (n=240：日常時)



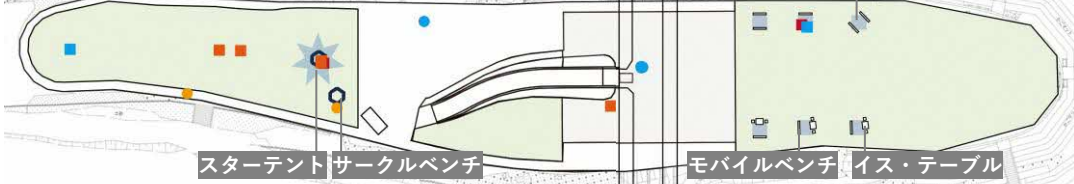
【仮設でも公園内にあったらいいなと思うもの (上位10位)】



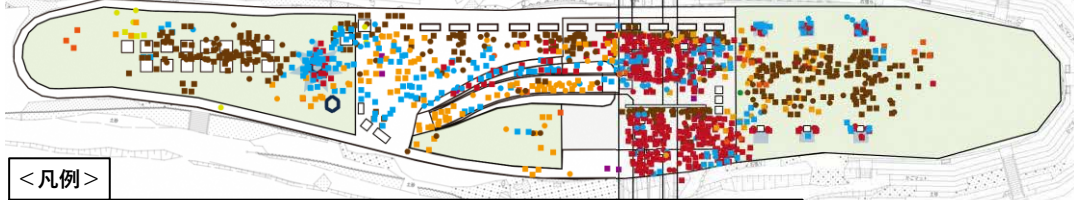
短時間・長時間両方の利用が見られた。日陰、滞在空間のニーズが非常に多い。

③滞留空間設置

[日常時・休日：2025年10月18日(土)7:00-20:00]



[イベント時：2025年10月12日(日)7:00-20:00]

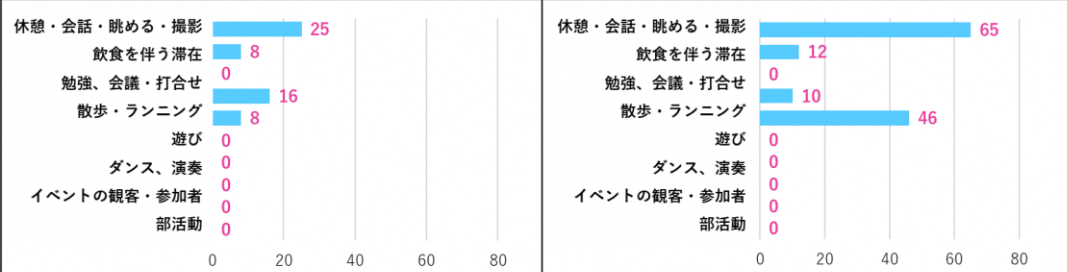


日陰、橋下に人が集っている

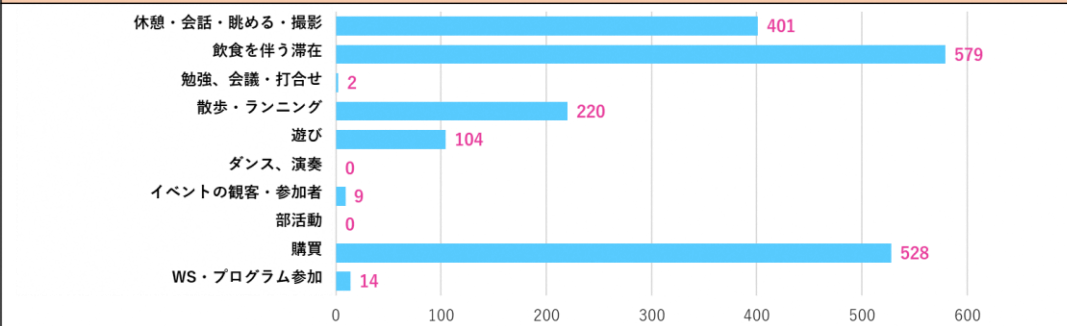
アクティビティの数

平日：2025年8月26日(火)・10月17日(金)7:00-20:00

休日：2025年8月24日(日)・10月18日(土)7:00-20:00



イベント時：2025年10月12日(日)・10月25日(土)7:00-20:00



休憩・会話・眺める・撮影・散歩・ランニングの行動が多く見られた

<設え・利用ニーズ>

【プレイス調査結果】

- ・休憩・会話、散歩、遊び、テント下での滞在、飲食、川遊び、鮎釣りといったアクティビティが見られた。
- ・日陰がある空間の利用が大半であり、夏は日陰がないと利用されなかった。

【利用者アンケート調査結果】

- ・樹木・木陰がほしい、子ども用遊具がほしい、気軽に川に行けるようにしてほしい、橋下の凸凹でベビーカーが進まない/子どもがつまずくため改善してほしい、草刈りをもっとしてほしい、川が見えるようにしてほしいといった意見が見られた。

- ・トイレは必要。

<什器の量>

【プレイス調査結果】

- ・日常時に什器の量の不足は見られなかった。
- そもそも日陰が少なかったことで利用が少なかったということも考えられ、今回の結果だけで什器の量の充足を検証するのは難しい。

- ・イベント時は主催者側で補完して対応。

- 一定数の什器があることで、主催者側の負担は軽減された。

・日陰がない場所はあまり滞在看られなかった。
 ・橋下が日陰であるが、地面が凸凹で滞在・通行しにくく改善が必要。
 ・日陰が少なかったことで利用が少なかった可能性があり、什器の量については妥当性を検証できなかった。

○今後の方向性

・本設の将来イメージの更新を行う。特に、日陰設置や橋下の環境改善について検討する。

→そのうえで、増水時対応を踏まえ、どこまで・どういうものを設置できるかを検討する。

・什器の量についても継続検討する。

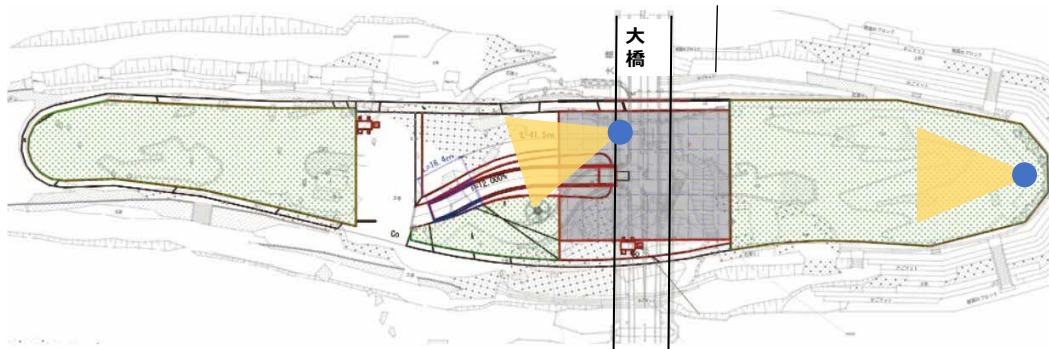
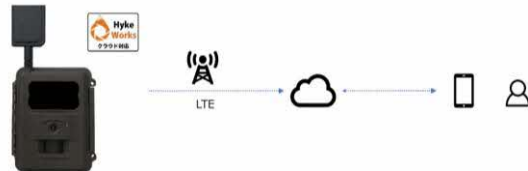
④ 定点カメラ

背景・目的

・将来的な中川原公園の管理手法の検討を目的に、定点カメラを2箇所設置し、公園全体の利用実態、駐車場の利用状況を把握することで、適切に管理が実施できるか検証を行った。

○社会実験内容・検証項目

- ・将来の必要性を検証するため、現在の電源のない環境で稼働する簡易な通信が可能な定点カメラを仮設で設置。
- ・ソーラーパネル駆動のLTE対応カメラを仮設置。①公園全体の利用実態の把握、②駐車場の利用状況を撮影し、管理手法の妥当性を確認。
- ・設置個所は以下の2ヶ所。
- ・期間：2025年8月1日～3月31日



○検証結果

- ・2ヶ所設置。
上流：芝生部分に単管打ち込み / 下流：大橋の道路照明柱に共架
- ・携帯、パソコンにて10分毎の静止画を確認。
おおよそ駐車場台数、利用状況などは認識可能。
10分の間での出来事が把握できない
画素数の限界により車両のナンバー、利用者の人物などが特定できない
- ・何回か不具合が発生。
接触不良、内蔵SDカード不具合などにより、カメラ撮影不能状況になった。



- ・定点カメラは必須（増水時の確認も含む）
- ・動画撮影、高解像度のカメラが望ましい（ナンバー認証機能は不要）

○今後の方向性

- ・増水時の確認や駐車場の確認のために、定点カメラ（動画撮影、高解像度）を整備する。

⑤活用プログラム

背景・目的

- ・水害後の復旧工事により、中川原公園の環境は従前から大きく変化した。
- ・今後中川原公園を利活用するうえで、利活用ニーズがあるか、こういったプログラムが適しているか、空間・環境としての使い勝手等を検証し、将来の空間整備に活かしていくために、民間担い手と連携して利活用社会実験を実施して各種検証を行った。

○社会実験内容・検証項目

- ・中川原公園を利活用するうえで、利活用ニーズがあるか、こういったプログラムが適しているか、空間・環境としての使い勝手等を検証するために、9の利活用社会実験を実施した。

○検証結果

<事業収益性(長期・定常的な事業)>

- ・活用に関わる備品等を毎回中川原公園に搬入するのは負荷・コストが大きいため、持続的な運用が難しい。継続的なテントサウナ、BBQの運営を企画していたが、断念した。(BBQはイベントとして2度実施)【主催者アンケート調査】
- ・中川原公園で有料でも利用・体験したいこと上位5位は、BBQ、マルシェ、音楽イベント、キャンプ、川遊びであった。【来場者アンケート調査】

<利活用(イベント等)>

【主催者アンケート調査】

- 利活用のための電源：あればよいが必須ではない。
- トイレ：(電源・給水がしっかり機能すれば)現状のトイレで十分。イベント規模が大きい場合は別途出店者が仮設トイレを設置することで構わない。
※バッテリー切れで水が出ない、給水タンクが空になる、汚水タンクが溢れるといった不具合があった。
- 利用者駐車場(臨時)：城跡・第一中学校・札の辻を臨時駐車場として使うことで、十分に対応可能。
→ただし、借用手続きが担い手のみだと大変なため、行政支援が必要。手続方法が明確になっていると手続きを進めやすい。
→ただし、城跡の駐車場の利用料を支払う場合は収支として厳しい。1台あたり約8,000円。
- 出店者駐車場：中川原公園に停めることで問題なし。
→ただし、駐車場の公園利用料を支払う場合に負担にはなる。1台あたり約400円。(2.5m×5.0m×30円/m²×日数+消費税)

- 排水：あればよいが必須ではない。
- 日陰：必須
- 使い勝手：中規模イベント(マルシェなど)として使いやすい
→ただし、上流・下流全体を使うと、移動が大変、目が届きにくい、一体感が生まれにくいといった理由から使いにくいかもしれない。
- 音楽フェスなどのステージが必要・チケット制の大規模イベントは、増水時のリスク、関係者・利用者動線の分離が困難などにより適さない。
- 許認可：マニュアル化できるとよい。
- ゴミ箱：イベント時は必要、日常時は不要。
【出店者アンケート調査結果】
- ・出店環境は良かったという意見が多かった。
- ・イベントや商売をしたいというニーズは一定数見られた。

○今後の方向性

●長期・定常的な事業

- ・継続検討、必要に応じて次年度社会実験実施。

●トイレ

- ・現状維持。電気供給方法と合わせて設置場所要検討。

●電気・給排水

- ・電源は最小限必要、給水は現状維持、排水は不要。

●環境

- ・日陰必須、橋下改善要検討。

●利用料(中川原公園・城跡の駐車場利用)

- ・主催者の収益とのバランスも踏まえた考え方を整理する。
(城跡駐車場は無料でないでないと成立しない)

●活用内容

- ・護岸工事の内容・時期により、活用内容を検討する。

●許認可

- ・必要手続き、申請フロー等の可視化を検討する。

⑥ あかり

背景・目的

- ・中川原公園の照明は河川管理者と協議し、大橋より下流側に設置した
- ・今後の中川原公園の利活用を見据え、仮設の照明を設置することで将来の空間整備に向けた仕様や設置箇所等の検討を実施した。
- ・中川原公園は、市民の意見からも眺めて楽しむ球磨川を中心にあり、多くの宿泊施設から眺める対象でもあり球磨川の水辺夜景を支える場所であると考えられる。

○社会実験内容・検証項目

- ・公園内への照明設備整備の視認性や夜景としての価値の検証
【公園内への配灯】【公園内什器への投光】
- ・大橋橋上からの投光により、夜間の安全安心が確保できるかの考察
【既存道路照明への大型スポットライトの共架】
- ・球磨川夜景の中核となる大橋の、橋上の安全安心と景観資源化の検証【手すり照明】
- ・大橋の既存道路照明を消灯し、大型スポットライトと手すり照明のみによる照度確認
- ・ランドマークとしての大橋のライトアップ手法の検証【護岸からのカラーライトアップ】

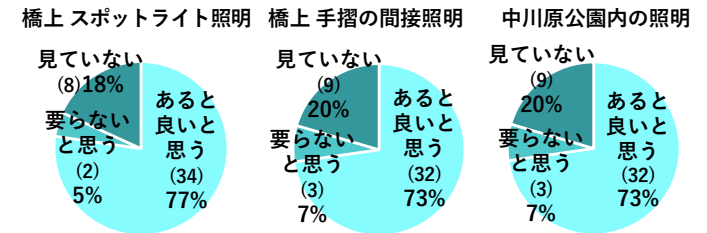
- ①視認性や快適性に関する来場者アンケート調査
- ②実装状態を疑似的に実施する社会実験により、効果と手法の可能性を判断

○実施状況と考察



○検証結果 【来場者アンケート調査】(n=48)

- ・中川原・大橋エリアのライトアップは「あると良いと思う」が多かった。
- ・橋上のスポットライト照明が「あると良いと思う」は77%で、最も多かった。
- ・ライトアップの光量や継続開催に関する意見が見られた。
- ・安全面や衛生面に関する意見が見られた。



○今後の方向性

- ①中川原公園内には照明整備が必要と確認できた
 - ・公園内に配置される樹木・什器・テントなどを風景として魅せるための照明整備が有効。(増水時にも耐える防水仕様。撤去の必要のない埋設型で突起物の無い形状の照明器具が望ましい)
 - ・中川原内への行灯型照明もポイントとして有効であったが、増水時のカバー部撤去が簡易である必要があり今後協議する。
- ②大橋橋上からのスポットライト照明は、一定の範囲を照射する方法として有効であり、安全な照度を確保しつつ、趣のある陰影をつくることのできるため、今後の橋梁照明更新として検討していく。
- ③大橋の手すり照明は橋梁のランドマーク化及び橋上歩道部を良好に演出できるが蜘蛛の巣対策は必要。
- ④球磨川右岸堤防(九日町側)から橋梁へのライトアップは、河川夜景として効果が高いので、整備を検討。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

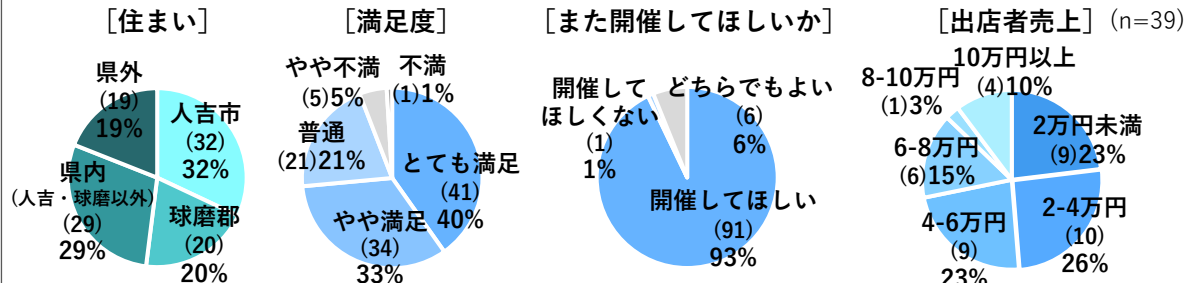
[担い手：鳥飼 絵梨さん・人吉球磨めし]

- ・熊本県内外の店舗、キッチンカー、子ども向けワークショップ、ヤマメのつかみ取りなどによるマルシェを中川原公園全体で開催。45店舗出店。球磨焼酎オクトーバーフェスト、小さな森作りワークショップと同時開催。
- ・公園の利用ニーズ・利用ルール、収益性等を検証。
- ・来場者約1,300人

期間：2025年10月12日(日) 10:00-15:00



○検証結果



人吉球磨以外の来場者も多く、満足度は高かった。出店者も一定の売上があった。

【主催者ヒアリング】

- ・初のマルシェ主催。SNSを活用して、九州全体への出店者声掛け、集客を実施。
- ・想定以上の来場者があり、出店者・客ともに満足度が高かった。中川原公園は時間によって風景が変わり、景観がよい。
- ・出店料収入と、準備物・当日の商品購入等の支出で収支は概ねプラスマイナスゼロ。
- 今後も定期実施する場合は、中川原公園・城跡での駐車場を無料で借用できれば、公園使用料(今回は免除)と出店料収入のバランスで黒字化の可能性あり。
- ・課題：会場が広く上流・下流で分断されたため、回遊性や出店者同士の交流に難があった。トイレの電源が落ちて不便があったがトイレや水道はあって良かった。出店者のジャンルの選定、調整は今後要改善。日陰と座る場所が不足していた。
- ・臨時駐車場対応で大きな問題はなかった。歩く楽しみが再認識された。
- ・今後：次回以降、来場者用駐車場が近くに確保できる場所があれば、中川原公園でなくそこで実施したい。(ふるさと歴史の広場など)
- ・毎月開催する担い手がいれば、継続的な事業としての可能性もあるかもしれない。
- ・許認可の手続きが明瞭かつ簡便になるとよい。

マルシェは継続実施意向。実施場所は駐車場位置を踏まえて要検討。

<行政運営事業(中川原公園)としての検証結果>

- ・トイレなどのインフラは適切に機能すれば現状の仕様で十分。日陰は必須。
- ・許認可手続きの可視化・簡便化の必要性。
- ・公園内、近隣の無料駐車場を確保する必要性。

○今後の方向性

・継続してマルシェを実施する方向で、来場者用駐車場の確保の方法を含め、ふるさと歴史の広場や中川原公園などの会場を検討する。

背景 ・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

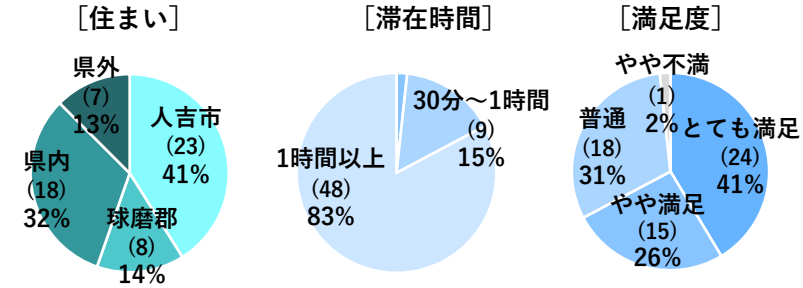
社会実験内容・検証項目

担い手：舟戸 貴織さん・球磨焼酎オクトーバーフェスト運営委員会

- ・球磨焼酎27歳の飲み比べや焼酎カクテルなどにより球磨焼酎の魅力を伝える企画を開催。球磨川マルシェ、小さな森作りワークショップと同時開催。
 - ・公園の利用ニーズ・利用ルール、収益性等を検証。
 - ・前売り券70枚、当日券120枚販売。
- 期間：2025年10月12日(日) 10:00-15:00



○検証結果 【来場者アンケート調査】(n=58)



人吉球磨以外の来場者も多く、約8割は1時間以上滞在、満足度は高かった。不満寄りの意見としては、日陰や座る場所の少なさといった環境面、カップの小ささなどについてであった。

【主催者ヒアリング】

- ・予想以上の集客があり、蔵元や組合の意識が前向きに変化した。
- ・定番以外の銘柄や高価格帯の飲み比べにニーズがあることが判明した。
- ・収益性としてはギリギリのところであり、事業としての継続には課題が残る。
- ・課題：イベント時のオペレーション（座席不足、説明員不足）、蔵元との連携。
- ・今後：球磨焼酎オクトーバーフェストの年数回の定期開催。加えて、まちなかの飲食店とのペアリング企画などを検討し、年間通じた焼酎への熱を維持したい。
- ・お湯を沸かす、冷蔵ケース用に電気があればありがたい。

今後も継続して実施する意向あり。年間を通じた企画を検討したい。

<行政運営事業(中川原公園)としての検証結果>

- ・日陰は必要。電気は必須ではないがあるとよい。

○今後の方向性

- ・球磨焼酎オクトーバーフェストの年数回の定期開催、まちなかの飲食店とのペアリング企画などを検討し、年間通じた焼酎関連の取組実施を模索する。
- ・球磨焼酎組合との連携に向けて検討する。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

[担い手：御園 豊子さん・松田 亜希子さん・グリーンコープ生協くまもと]

- ・令和2年の水害を振り返るとともに、飲食等の出店、ふるまいかき氷、リサイクル市などを実施。
- ・出店は、メーカー3社、唐揚げ、キッチンカー、野菜、衣料の7店舗。
- ・利用ニーズ、駐車場などを検証

期間：2025年9月6日(土) 16:00-19:00



検証結果

【主催者ヒアリング】

- ・中川原公園で実施できて最高だった。暑かったが風が気持ちよかった。過去最高の来場者であった。
- ・滞在はあまり多くないかもしれない。回転が早かった。駐車場も15台だったためちょうどよかったか。
- ・来場者は周辺に車を停めて歩いてきた人が多かった。公園に入る車が列を作って大変ということにはなかった。橋下のところまで駐車できればより台数的には余裕があった。
- ・全部完売した。来場200人程度の想定で出店者には準備してもらっていた。時間が短かったため、集中して売れるのは良かったと出店者から聞いた。
- ・9月はまだトイレと照明がなく、その準備は大変だった。公園利用料が免除されたことはありがたい。
- ・スターテントは日陰で人が集まって良かった。橋下の凸凹を改善できないか。
- ・球磨川が見えなかったことは残念。
- ・災害支援で人吉に来てもらった人が、その後の復興を知るきっかけがなかったが、これをきっかけに来てもらえた。
- ・今後、グリーンコープ祭りのようなイベントを中川原公園なら実施できる。熊本や天草で、グリーンコープがメーカー20社呼ぶというイベントもやっている。九州内のグリーンコープやメーカー50名ほどが前泊するためまちにとってもメリットがある。

・イベント／出店環境は良かった。
・今後も中川原公園でのイベント実施の意向あり。

<行政運営事業(中川原公園)としての検証結果>

- ・日陰、トイレ、照明は必要。橋下の改善が望まれる。
- ・駐車台数は足りていたが、来場者の車両、人と車両の交錯を避ける誘導を行う必要がある。

今後の方向性

- ・次年度以降も中川原公園でのグリーンコープのイベント実施を検討する。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

[担い手：青井阿蘇神社・奉賛会]

- ・おくんち祭りの際に、中川原公園に御旅所を設置。
- ・大橋を11時30分～14時30分まで車両通行止めとした。
- ・利用ニーズ等を検証。
- ・行列参加者+スタッフ約300名がテントのなかで飲食した。神輿団体は9団体参加。

期間：2025年10月9日(木)



検証結果

【主催者ヒアリング】

- ・景観、ロケーションがすばらしかった。
- ・スロープからしか公園に下りれないため、動線がしっかりしていると、もっと賑わうのではないか。一般の方が下りやすい雰囲気づくりも重要。
- ・広さは問題なかった。設営に関しては遊歩道を車が通れてよかった。雰囲気としても十分厳かにできたのではないかな。
- ・仮設トイレを4基設置した。足りないという感じはなかった。女性がトイレに行きにくい雰囲気はあった。
- ・増水時の撤去の懸念があるため、テントを張るタイミングに気を遣った。毎年10月6日に御旅所設営をしており、本番はその3日後で当日雨かどうかだいたいわかるため、6日に設営するかどうかの判断をすればよい。仮にテントを立てないときは、大橋を渡らず御旅所にも寄らず、445号線を直進して半日で神社に戻る想定だった。
- ・風が強いため、テントが倒れないか心配だった。後ろの膜はめくって、風が抜けるようにしていた。ペグは長いものを打っていた。
- ・神輿団体は老神社の参集殿、橋下等それぞれで休憩場所を確保してもらったため離れてしまった。上流側にテントを立てるなどができるとよかった。
- ・中川原公園でお祭りをやっているところに行列が入っていくことが理想。ただその場合増水・中止のリスクもある。温泉祭りと一緒にやるのがよいのではないかな。人が減っていくなかで、まちなかのイベントも合同でやるなど、効率的にやることも大事なのではないかな。昔サーカスをやっているところに御旅所を作っていたため、賑やかにやることは全く問題ない。夜まで続いてもよい。大橋を歩行者天国にして、屋台やキッチンカーを並べてやる方法もありか。
- ・大橋通行止めは特に問題はなかった。ただし、あゆの里前の管理用通路から車が進入できてしまうため注意が必要。
- ・来年も中川原公園で御旅所を設置することを考えているが、今後の検討による。

環境・雰囲気は良かった。増水時撤去のリスクが大きい。他のイベントとの合同実施も含め、今後の実施場所・内容検討。

今後の方向性

- ・次年度中川原公園に御旅所を設置するかは、他のイベントとの合同実施の可能性も含め、今後継続検討。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

[担い手：祇園下 千裕さん (主催：らぞLABO、運営：ドットリバー)]

- ・同日に城跡で実施した音楽フェスRural Act'25の参加者限定で、中川原公園をキャンプサイトとして運営。
- ・4組の利用があった。
- ・実施場所、利用ルール、収益性などを検証。

期間：2025年10月11日(土)

チェックイン：10月11日(土)9:00~16:00

チェックアウト：10月12日(日)9:00

料金：1区画(約8m×8m)：3,500円(税込)／テント1張まで

※キャンプ利用者は中川原公園内の駐車場利用可



検証結果

【主催者ヒアリング】

- ・チェックイン対応時間をもっと限定的にしても良かった。(スタッフ常駐時間の長さ)
- ・独占利用ではない為、他の一般利用者とのバランスが難しい。
例)夜遅くに話しこんでいる若者が公園内に沢山いて、うるさくて眠れなかった。
- ・事前に「ごみの持ち帰り」「完全撤収時間」などルールを決めていたのは良かった。
- ・トイレの電源が落ちてしまったことでクレームに繋がった。
- ・現状では川への景観があるわけでもない。
- ・人吉市都市公園使用許可申請における使用面積の計算が大変であった。
- ・今回はRural Act'25の参加者限定であったが、市民の中川原公園でのキャンプニーズは高いため、一般の方向けのキャンプを実施したい。

雰囲気は良かった。一般利用者との棲み分けや、トイレ等の設備については課題が残る。

<行政運営事業(中川原公園)としての検証結果>

- ・トイレ等の設備が適切に機能すれば、現状の設備環境でもキャンプのニーズはある。
- ・キャンプ利用者と一般利用者の棲み分けを検討する必要がある。

今後の方向性

- ・次年度は一般の方向けのキャンプ企画を検討、実施する。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

[担い手：椎葉 博紀さん・木人舎]

- ・球磨川流域で育ったどんぐりなどを使って鉢植えするワークショップ。鉢植えは持ち帰って大事に育てて小さな森づくり。苗木が育ったら、球磨川流域の山にみんなで戻してやがて大きな森へ。
- ・10人参加。
- ・球磨川マルシェ、球磨焼酎オクトーバーフェストと同時開催。
- ・人吉球磨の地域循環などを検証。

期間：2025年10月12日(日) 10:00-15:00



検証結果

【主催者ヒアリング】

- ・初めての参加者がいて、繋がりが生まれた。収益よりも知ってもらうことが重要。今後もWSは人が集まるところに出ていって一緒に実施するのがよいかもしれない。
- ・スタッフは仕事のなかではあまり人との交流がないため、今回人と交流して直接リアクションを見られてよかった。
- ・一事業者での継続は難しく、仲間づくりや枠組みが必要。
- ・森づくりWSは、教育プログラムと連携して、6年のプログラム化をすることが考えられる。通常植樹祭をしてセレモニー的に終わることが多い。
- ・宿泊施設や病院、学校で使う食器類など。身の回りのもので、地元の木資源を使って置き換えられるものを深掘りしていきたい。

WSの継続実施意向あり。

今後は継続的なプログラム化や地域木材の利用を促進する取組みを検討。

今後の方向性

- ・WSの継続実施。
- ・今後はWSの継続的なプログラム化や地域木材の利用を促進する取組みの検討を進める。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

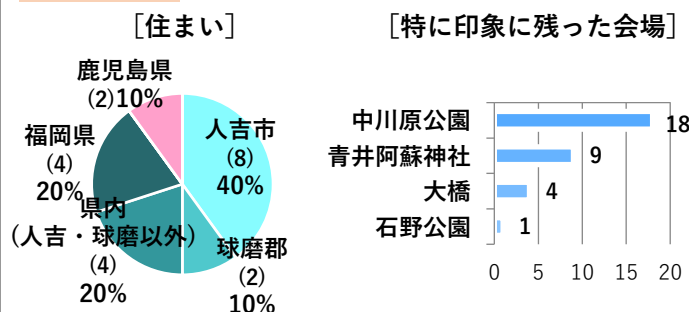
[担い手：人吉よさこい銀翔会・熊本県立大学未来創士]

- ・大橋を歩行者天国化、中川原公園にステージを設置して、よさこいの演舞を披露。
- ・中川原公園では地元飲食店出店。
- ・8日夜に中川原公園で交流会実施。
- ・交通影響、地域合意などを検証。

期間：2025年11月9日(日) 10:00-16:00

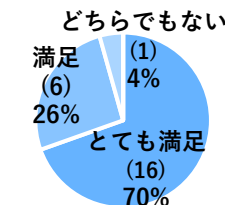
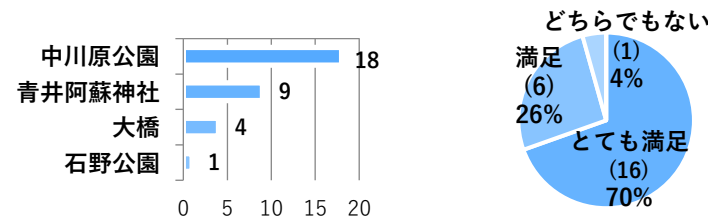


○検証結果【来場者アンケート調査】(n=20)



○踊り子アンケート調査

[満足度] (n=25)



市外からも参加が見られた。踊り子の満足度が高かった。

【主催者ヒアリング】

- ・今回は4会場・スタッフ70名で実施したが、雨天対応やオペレーション共有に課題が残った。
- ・ステージを囲む配置で一体感が生まれ、出店者の7割以上が満足し、雨であったが売上も大きく落ち込まなかった。
- ・医療センターへのアクセス（特に日曜）を懸念する住民の声がある。年に2回程度なら許容範囲かもしれないが、積極的な後押しは少ない。
- ・大橋と中川原公園の「見る・見られる関係」や空をバックにした演舞は好評。ただし、両会場の音響干渉やスタッフ不足により、大橋での演舞数は制限された。
- ・中川原公園の水はけ、駐車場不足（遠くて子供連れに不便）、電源確保が課題。
- ・仮設トイレを設置する費用がかかった。また、トレーラートイレが使えなくなり、トイレが足りなくなることがあった。
- ・今回は社会実験として大橋・中川原公園で実施したが、会場が広いことによる音響費などのコスト増が重荷。

大橋・中川原公園での演舞は好評であったが、コスト面で課題あり。緊急車両が迂回することについて懸念がある。

<行政運営事業(中川原公園)としての検証結果>

- ・水はけ、電源、駐車場、トレーラートイレの適切な稼働が課題。
- ・緊急車両の迂回に関する市民理解を得る必要性。

○今後の方向性

- ・費用対効果や医療センターへの配慮から、次回も大橋・中川原公園を会場として実施するかは悩ましい。代替地として青井中央公園(仮称)も考えられるため、日程も含め継続検討。

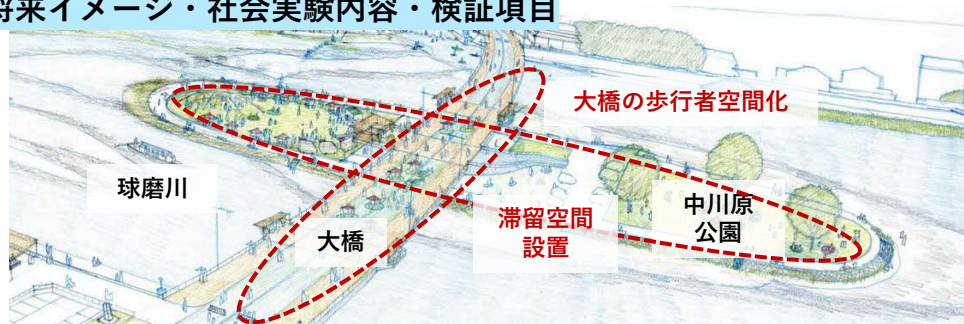
おおはしひろば 社会実験内容・今後の方向性

背景・目的

- ・今の大橋にあたる橋が架橋されたのは今から400年以上前。大水で橋が流されるたびに修復が行われ、住民にとっては球磨川の右岸と左岸をつなぎ暮らしを支える重要な橋であり、大橋からの眺めは人吉を象徴する風景であると言える。
- ・その大橋を、中川原公園と一体的に人のための空間にすることを目的し、大橋の歩行者専用化と環境整備、日常づかいの企画を実施することで、利用ニーズや交通影響等を検証することを目的に社会実験を実施した。



○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



【担い手：公募による計20企画の主催者】

- ・将来、大橋を人のための滞留空間にすることを見据え、週末土日に歩行者専用化し、滞留空間等の環境を設え、賑やかなイベントではなく、日常の居場所として活かすアイデアを募集・実施した。公募により、20企画が実施された。
- ・交通影響、利用ニーズ、設え、地域合意などを検証。

期間：10/25(土)11:00-22:00、10/26(日) 10:00-16:00

※25日夜間も継続して歩行者天国化。



○検証結果

周辺の山並みや川などの独自の景観、夕日や夜など時間とともに移り変わる趣、道路・橋で憩い交流するというこれまでにない体験が好評だった。

<利用ニーズ>

- ・来場者の74%が「とても満足」「やや満足」、84%が「今後も日常使いの企画を開催してほしい」であった。【来場者アンケート調査】
- ・アクティビティの数・種類ともに日常時より増加した。【滞留行動調査】
- ・企画者の84%が「また企画・出店したい」、大橋で「イベント・企画・事業・出店したい」が15回答あり活用ニーズが一定数見られた。【企画者アンケート調査】
- ・周辺の臨時駐車場対応で大きな問題はなかった。

<設え>

・強風対策が必要(下流→上流への風)。風になびく日除けが好評。

<運営方法>

- ・活用に関わる備品等を毎回大橋に搬入・設置するのは負荷・コストが大きいため、持続的な運用が難しい。
- ・警備員を2日間常駐とするのはコストが大きいため、持続的な運用が難しい。
- ・今回は夜間工事があることで通行止めとできたが、イベント等で夜間通行止めとすることは現状警察から認められていない。

<交通影響>

- ・周辺病院・消防・交通機関との事前協議により、当日緊急車両等を迂回することで了承を得た。→緊急車両等への影響はなかった。
- ・大橋を通行止めにした場合、水の手橋が主な一般車両の迂回路として選択され、その交通量は平日よりも少ないことから、周辺の交通に大きな影響はないと考えられる。【自動車交通量調査】
- ・ヒヤリハットが2回あった。【警備員アンケート調査】

<地域合意>

- ・クレーム等は無かったが、通行止めにする必要がなく中川原でやれば良いといった回答もあった。【来場者アンケート調査】
- ・来場者の75%が「イベント的に全面・一部をホコ天にする方がよい」で「常に全面・一部をホコ天にする」の13%より回答が多かった。【来場者アンケート調査】

○今後の方向性

- ・来年度も大橋を歩行者天国化した企画を検討・実施する。
- ・大橋を利用した企画の担い手、一緒に運営する有志を募る。担い手とともに、頻度、日数、簡易な運営方法などを検討。
 - パターン①：年に数回程、土日におおはしひろば実施(全面ホコ天)
 - パターン②：歩道の一部を小さく活用
- ・日をまたぐ夜間の活用が可能となるための協議、設営撤去が簡易な設えの検討。

交通量調査結果

大橋を通行止めにした場合、主に水の手橋が迂回路として選択され、その交通量は平日よりも少ないことから、周辺の道路交通状況に大きな影響はないと考えられる。

< 調査概要 >

- ・社会実験前（平常時）と社会実験期間中（大橋通行止め実施中）の交通量を計測・比較することにより、大橋通行止めによる自動車交通量の変化や道路交通状況への影響等を把握する。

< 調査日時 >

- ・社会実験前：2025年7月13日（日）7～19時
- ・社会実験後：2025年10月26日（日）7～19時

< 調査方法 >

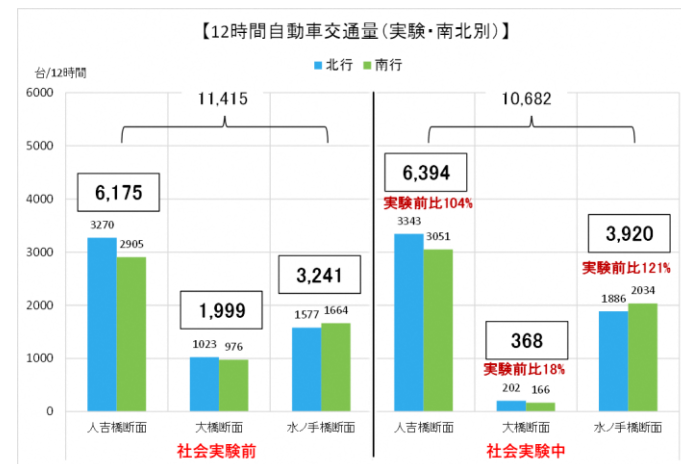
- ・下図に示す①～⑧の交差点にビデオカメラを設置し、歩行者・自転車・自動車の動きを録画し、その映像をもとに12時間方向別交通量を計測。



< 調査結果 >

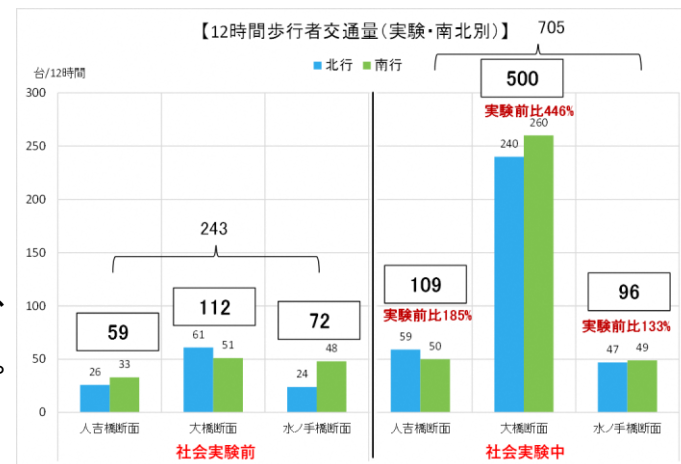
1) 自動車交通量

- ・3橋合計の自動車交通量は、社会実験前11,415台に対し、社会実験中10,682台と微減。
- ・人吉橋断面の交通量は社会実験前とほぼ変わらず、水ノ手橋の交通量は約20%増加。
- ・大橋通行止めに対する迂回交通として、水ノ手橋側を選択したドライバーが多いと推察される。



2) 歩行者交通量

- ・3橋合計の歩行者交通量は、243人→705人と大きく増加。
- ・「おおはしひろば」実施時の大橋断面の歩行者数は446%と大きく増加。
- ・人吉橋断面、水ノ手橋断面の歩行者数もそれぞれ+85%、+33%と増加。
- ・「おおはしひろば」の実施により、大橋はもちろんのこと、周辺エリアにおけるまち歩き活性化の波及効果がみられる。



3) 駐車場利用状況

- ・「おおはしひろば」実施時における周辺駐車場の台数調査を実施（1時間に1回計測）
- ・人吉城跡観光駐車場をはじめとする周辺駐車場が不足する事態は見受けられなかった。
- ・大橋～人吉城跡観光駐車場の胸川沿いの人々の往来が生れていた。

▼人吉城跡観光駐車場



▼大橋～駐車場間の往来



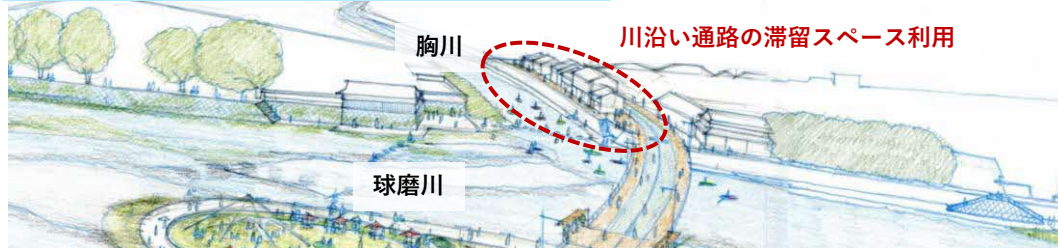
公募
20
企画



背景・目的

- ・昨年度の検討やWSのなかで、胸川沿いの河川道路について、沿道建物と連動して心地よく歩き滞在する空間に変えるとともに、対岸とも見る・見られるの関係を築くことを目指すこととなった。
- ・今年度の社会実験では、河川沿い道路を歩行者専用化し、誰でも利用できる滞留空間の設置やイベント等を実施することで、利用ニーズや地域合意、交通影響等を検証することとした。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



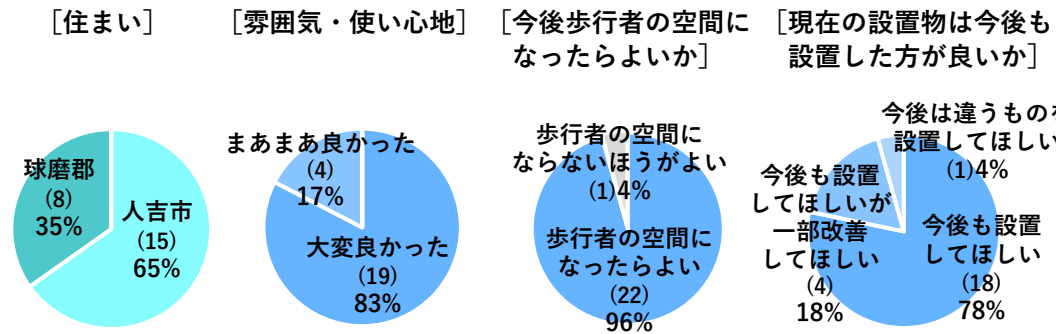
【担い手：嶽本 武史さん(御麵・りんどう)】

- ・将来、河川道路を人のための滞留空間にすることを見据え、一定期間歩行者専用化し、誰でも利用できるテーブル・ベンチ等の設置、イベントを実施した。
- ・交通影響・設え・利用ニーズ・地域合意などを検証。
- ・主催者自ら清掃や什器設置などの管理運営、自主イベント等の活用を実施。(イベント14回、清掃活動4回：2月20日時点)

期間：2025年10月4日(土)～2026年3月31日(火) ※継続中



○検証結果【来場者アンケート調査】(n=23：2026年2月12日時点)



来場者に好評、今後も歩行者の空間・設置物の常設意向あり

【主催者ヒアリング】

- ・このまま球磨川テラスを継続し、常設化を目指したい。
- ・このエリアに人が来ることが日常になるとよい。
- ・特に事故等なく交通影響は見られなかった。
- ・周辺住民の方はイベント等に来てもらっている。継続してコミュニケーションを取っていききたい。否定的な人は現状いない。
- ・車両の出入りに関する苦情が1件あったが、歩行者天国化区間の変更により解決。
- ・周辺の店舗・事業者は元々交流もあり、応援してくれている。

周辺住民・事業者は好意的な反応
道路清掃などの維持管理に協力
担い手の継続意向あり

○今後の方向性

- ・球磨川テラス(左岸)の常設化(歩行者天国化、滞留空間等設置)を目指す。
- ・道路、河川における活用の制度設計が整うまでの間、社会実験期間を延長する。

- ・昨年度の検討やWSのなかで、球磨川沿いの河川道路について、沿道建物と連動して心地よく歩き滞在する空間に変えるとともに、対岸とも見る・見られるの関係をつくることを目指すこととなった。
- ・今年度の社会実験では、河川沿い道路を歩行者専用化し、誰でも利用できる滞留空間の設置や旅館と連動したサービス提供を実施することで、利用ニーズや地域合意、交通影響等を検証することとした。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



【担い手：有村 友美さん(あゆの里)】

- ・将来、河川道路を人のための滞留空間にすることを見据え、一定期間歩行者専用化し、誰でも利用できるデッキ・テーブル・イス・パラソルを設置した。
 - ・あゆの里が、毎日イス・テーブル設置・撤収、パラソルの開閉をして運営した。
 - ・旅館にチェックインしたあと、お客様に鮎の塩焼きを提供し、川を見ながら鮎を食べられる「ウェルカム鮎」を10月25日(土)に実施した。
 - ・交通影響・設え・利用ニーズ・地域合意などを検証。
- 2025年10月10日(金)～12月26日(金)



○検証結果

- ※特に事故等なく交通影響は見られなかった。
- ※利用シーンがあまり見られなかったこともあり、「なぜ何もしていないのに通行止めになっているのか」といったクレームが数件あった。
- ※来場者アンケート調査は回答数2のため、十分な検証ができなかった。

【主催者ヒアリング】

- ・「ウェルカム鮎」を1回実施。宿泊客の約5割弱が利用し、30匹の鮎を一番美味しい状態で提供できて好評だった。
- ・強風時はテーブルを出せないなど天候に左右される面があった。
- ・現状、施設へのクレームやスタッフの負担感などの大きな問題はない。
- ・次年度、6～7月の閑散期対応の意味も含め、球磨川テラスを4月～11月中旬頃で実施したい。(夏は除く)その際、下記を検討したい。
 - ・建物内のロビーから気軽にアクセスできるよう、ロビーからテラスに直接行ける動線確保。毎日使えるようにお客様に案内、ドリンクもテラスに持ち出せるようにする。
 - ・宿泊客が朝食をテラスで食べる、鮎塩焼きと球磨焼酎を楽しむといったシーンをつくる。
 - ・ウェルカム鮎の仕組みを再検討。
 - ・什器の拡充。雨や日差し対策としてパラソルを増やすなど。
 - ・独自のSNS広告によるPR。

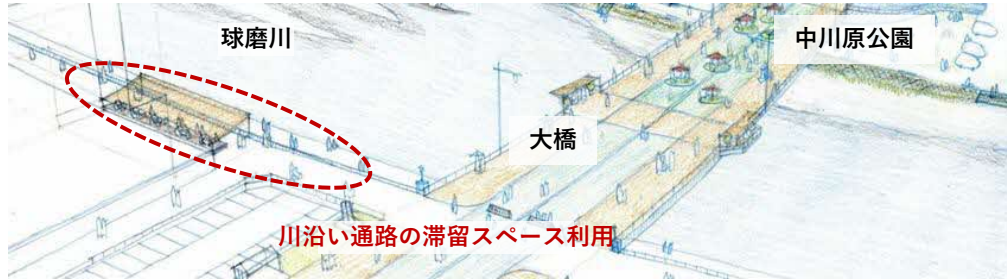
利用が増えるような工夫を検討し、次年度再度社会実験を実施したいという担い手の意向あり。

○今後の方向性

- ・来年度に改めて社会実験を実施する方向で、上記を継続検討する。
- ・今回実施した河川道路が通学路であるため、自転車通行との共存方法について継続検討し、警察等関係者協議を行う。

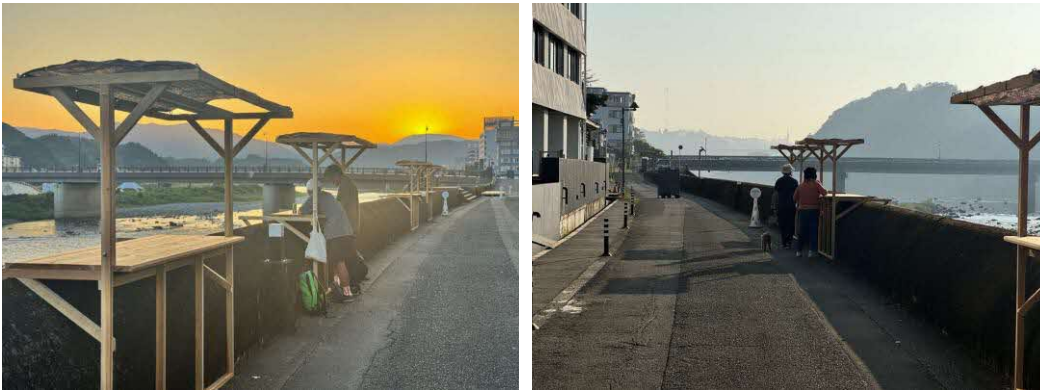
- ・昨年度の検討やWSのなかで、球磨川沿いの河川道路について、沿道建物と連動して心地よく歩き滞在する空間に変えるとともに、対岸とも見る・見られるの関係をつくることを目指すこととなった。
- ・今年度の社会実験では、河川沿い道路を歩行者専用化し、誰でも利用できる滞留空間の設置や旅館と連動したサービス提供を実施することで、利用ニーズや地域合意、交通影響等を検証することとした。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



[担い手：富田 康介さん(鍋屋旅館)]

- ・将来、河川道路を人のための滞留空間にすることを見据え、一定期間歩行者専用化し、誰でも利用できるカウンターを設置した。
- ・昼飲みをターゲットとして、鍋屋旅館1階のバーで15時～18時頃に不定期でドリンク提供を行った。
- ・交通影響・設え・利用ニーズ・地域合意などを検証。
2025年10月10日(金)～12月26日(金)



○検証結果

- ※特に事故等なく交通影響は見られなかった。
- ※利用シーンがあまり見られなかったこともあり、「なぜ何もしていないのに通行止めになっているのか」といったクレームが数件あった。
- ※来場者アンケート調査は回答数2のため、十分な検証ができなかった。

【主催者ヒアリング】

- ・受付で案内してもテラスより室内ラウンジを選ぶお客様が多く、屋外では有料の足湯の方が利用されていた。夏の暑さ、冬の寒さなどが利用のハードルとなった。
- ・周辺からの苦情はなく、学生の通学にも危険はなかった。
- ・15時～18時はチェックインや夕食準備でバースタッフが確保できないことが多かった。簡易に飲み物を注文できる仕組みができないか。
- ・来年度、下記のような利用される仕組みを作って再度実施したい。
 - ・「夕日を眺めるドリンク」や「はしご酒の起点」などキャッチーなテーマ設定
 - ・宿泊客以外も利用できる雰囲気づくり。
 - ・スタッフの昼食利用などでまず使い方を見せる。
 - ・周辺カフェとの連携や足湯スペースでの周辺店舗出店。

利用が増えるような工夫を検討し、次年度再度社会実験を実施したいという担い手の意向あり。

○今後の方向性

- ・利用される仕組みを作って来年度再度社会実験を実施するか、継続検討。
- ・今回実施した河川道路が通学路であるため、自転車通行との共存方法について継続検討し、警察等関係者協議を行う。

背景・目的

- ・昨年度の検討やWSのなかで、球磨川・胸川で川とふれあう機会や場を設けることを目指すこととなった。
- ・それに向けてライフジャケットの貸出等により自由使用の促進を図る検討を進めてきたが、安全管理におけるリスクが大きいため方針変更を行い、まずは川での安全な遊び方を学ぶ安全講習・川遊びを実施することで、川遊びニーズ、川遊び場所の選定、運営体制などを検証することとなった。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目

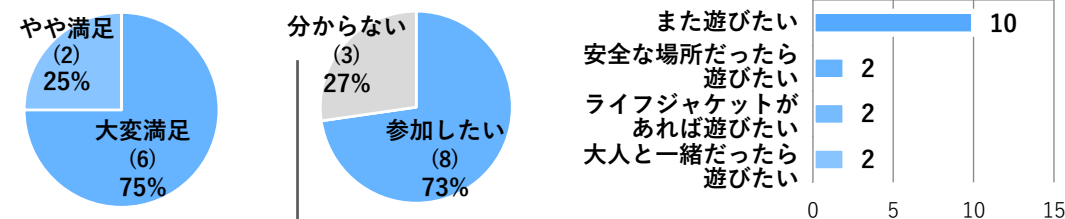


- ・川での遊び方を学び、安全に水遊びができる場所をつくるため、インストラクターのもとでの安全講習と川遊びを体験。
 - ・インストラクター：迫田 重光さん
 - ・川遊びニーズ、川遊び場所の選定、運営体制などを検証。
- 期間：2025年 ①8月20日(水) ②9月13日(土) 10:00-12:00



○検証結果【来場者アンケート調査】(保護者 n=8、子供 n=11)

[満足度(保護者)] [また参加したいか(子ども)] [また川で遊びたいか(子ども)]



- ・今日とコースが違ったり、内容が違うなら参加したい。
- ・怖い事もあったし体が痛くなって不安に思ったから
- ・寒い

2回とも定員の申込があり、一定のニーズが見られた。
参加者の満足度は高く、また川遊びをしたいという意見も多かった。

【主催者ヒアリング】

- ・昨年度実施した球磨川と胸川の合流地点は、流れが緩やかで単調で球磨川へ流されるリスクがあるが、今年度実施した胸川の少し上流は、安全にアクセスができ、救助もしやすく、一部流れが早いところもあるため適した場所。ただ滑って転んで頭を打つと危ないため、ヘルメットはあった方がいい。
- ・会社のリバーアクティビティ事業は夏がハイシーズンであり、この時期の対応は難しい。レスキューの講習を受けたインストラクターを増やして、属人的ではなくみんなで講習・川遊びを実施できるようにするのが良いのではないか。
- ・国交省にも参加の声掛けをできるとよい。横の連携ができる。

川遊びに適した場所で実施することができた。インストラクターを増やして、みんなで講習を実施する体制ができないか。

○今後の方向性

- ・講習・川遊びは今後も継続する。
- ・体制について、インストラクターを増やすなど今後要検討。
- ・実施場所について、今回実施した場所も含め、継続的に検討する。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

○社会実験内容・検証項目

[担い手：球磨川ラフティング協会]

- ・球磨川でゾーブ、SUP、テントサウナを体験。
- ・SUP：①②HASSENBA周辺
- ・ゾーブ：①中川原公園
②球磨川・胸川合流地点
- ・テントサウナ：①②中川原公園
- ・川遊びニーズ、収益性などを検証。

期間：2025年 ①9月27日(土) ②10月19日(日) 10:00-15:00

アクティビティごとに各日それぞれ5回開催受付

10:00/11:00/12:00/13:00/14:00

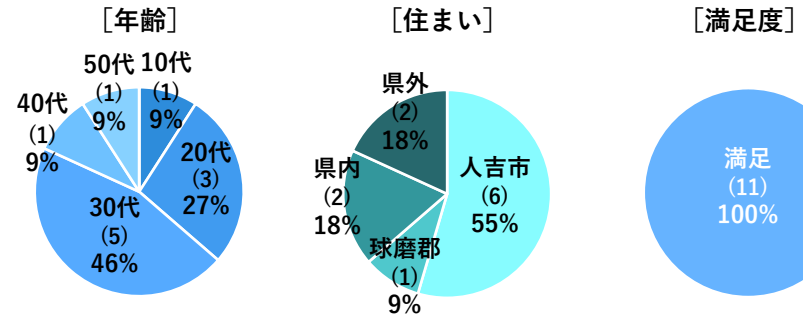
ゾーブ：10分500円(定員3名)

テントサウナ：1時間2,000円(定員5名)

SUP：1時間3,000円(定員10名)



○検証結果【来場者アンケート調査】(n=11)



様々な年代が参加し、満足度は高かった。値段設定に関しては、種目によって低い・適切・高いそれぞれの意見があった。

【主催者ヒアリング】

- ・ラフティング協会ではテントサウナ、サップのツアーは既に実施しているが、イベントはやったことがなかったため、需要を見てみたかった。
- ・ラフティングのハイシーズンを外して実施した。各2名の計6名で運営した。ただハイシーズンで準備ができず、告知が遅くなってしまった。
- ・収支としては赤字であり、ほぼボランティアであった。年に数回のイベントであれば実施可能性はあるが、今後黒字化が見込める方策がないと、事業化は難しく、継続は厳しい。
- ・中川原公園でのアクティビティは適さない。球磨川本流ならきれいであるが、胸川沿いで子どもたちが遊ぶのはあまりイメージができない。大橋下は銀杏がとても多く、秋になると溜まってしまうため川が濁っている。
- ・中川原公園だとゾーブが適している。ただ中川原公園の川側で鉄筋やコンクリートが出ているため危険性があったため、公園中央の芝生で実施した。
- ・ゾーブなど簡便なコンテンツであれば、協会ではなく一事業者が実施する方がやりやすいのではないかと。

告知が遅れたことも影響し、集客ができなかった。事業化に向けてのハードルは高い。

○今後の方向性

・定常的な事業化は協会としては難しい。

背景・目的

- ・昨年度の検討のなかで、まちなかや球磨郡との関わりや、球磨川流域全体における地域循環を創出するための取組みを検討することとなった。
- ・それに向けて、MIZBERING(ミズベリング)という、新たな水辺の活用の可能性を切り開くための全国で実施されている官民一体の協働プロジェクトと連携し、MIZBERING人吉会議を開催することで、球磨川流域を考える取組みのきっかけを作ることを目的に実施をした。

社会実験内容・検証項目

MIZBERING 人吉会議

[担い手：MIZBERING人吉会議実行委員会]

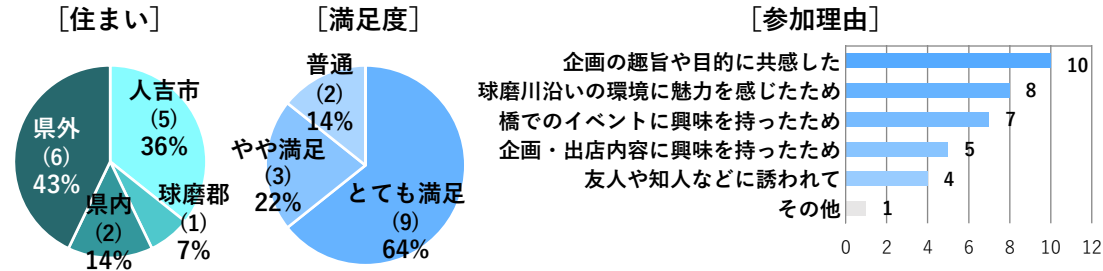
(国土交通省八代河川国道事務所、熊本県球磨川流域復興局、人吉市復興支援課、人吉市まちづくりデザイン会議)

- ・人吉の暮らしに根付く球磨川。官民の取り組みや地域の担い手の想いを共有し、流域治水とまちづくりが一体に進むこの人吉球磨地域の、新しい関係性やアクションのヒントを探ります。
- ・関係性の再認識などを検証。

期間：2025年10月26日(日) 13:00-15:30 @おおはしひろば



検証結果【来場者アンケート調査】(n=14)



参加者の満足度は高く、関係者が多かった。

【主催者ヒアリング】

- ・人吉のまちづくりの特徴は、球磨川が暮らしに根付いていて、流域治水とまちづくりが一体で進んでいること。対象エリア、担い手の主体や取り組み内容が異なると思いがちな、復興まちづくりの官民の動きと、その土台となっている球磨川の流域治水の両方について、担い手同志で想いを話しあう場が欲しいと感じていた。
- ・大橋の上で、人吉球磨の山々や球磨川を背景にした会場がよかった。
- ・社会実験の担い手、地域の事業者、国交省の流域治水担当者、河川や公園の管理者、県や市の担当者、ミズベリング事務局、デザイン会議専門家などが話し合った。どの立場の中にも一歩踏み出そうという面白い人がいて、そのような人達を応援できる場やつながりが大切ということを再認識できた。
- ・マルシェの企画を通じて、楽しんでいただくという空間を作れたこと自体が、流域治水という本質的な発言もあった。
- ・球磨川でつながる森～まち、人々に思いを寄せるきっかけとなる動きを、関係者と共に進めていきたい。

球磨川流域において、官・民に関わらず自ら取組みを進める人達を応援できる場やつながりを創っていきたい。

今後の方向性

・民間担い手、市、県、国で連携して、球磨川流域の地域循環に関わる取組みを継続して検討・実施していく。



[人吉城跡イメージ(アクションプラン)]

<凡例> **アクションプラン記載・社会実験実施事項**
 アクションプラン記載・社会実験未実施事項
社会実験内容
 検証結果・今後の方向性概要

[あかり(石垣・樹木)]

- ・河川区域外(樹木ライトアップ)常設化
- ・河川区域内(石垣ライトアップ)の常設方法要検討

[ふるさと歴史の広場等活用]

- ・屋外イベントが好評
- ・まちなかで他に屋外イベント候補地無し
- イベント利用受入について条件を整理

[歩行者天国化・滞留空間]

- ・想定していた効果検証が実施できず
- ・R8年度：保存活用計画と並行して将来の人吉城跡のゾーニングを検討
- R9年度：ゾーニング案を踏まえた社会実験を改めて実施

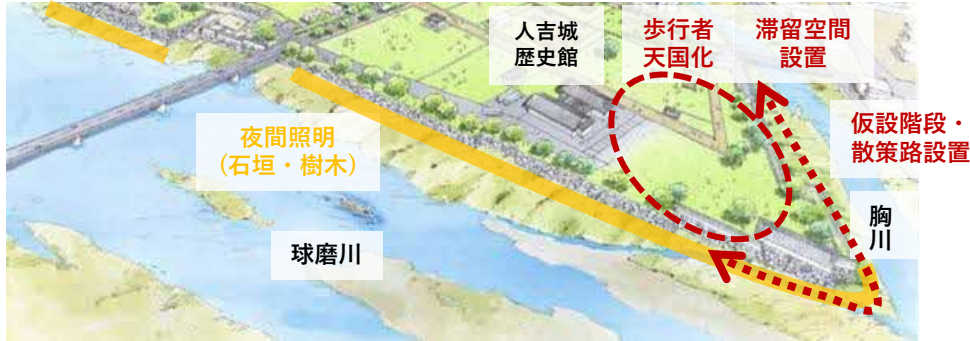
[仮設階段・散策路設置]

- ・有効性を確認、石垣を下から体感
- ・常設化に向け検討
- 胸川対岸をつなぐ飛び石設置、老神神社側へ上る既存階段改修についても検討
- ・文化庁、河川管理者(国、県)との協議、整備/維持管理方法・主体等の検討

背景・目的

- ・人吉城跡では、歴史的雰囲気を感じられるような工夫や、城跡内及び周辺との回遊性向上が課題であった。
- ・今年度の社会実験では、人吉城歴史館のリニューアルオープンとも連動し、歴史館西側道路の歩行者天国化と滞留空間づくり、石垣・樹木を照らす夜間照明、城跡と球磨川・胸川沿いを回遊可能な仮設階段・散策路を設置し、利用ニーズや回遊性、地域合意等を検証することを目的に実施した。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



- ・将来の常設を見据え、城跡と球磨川・胸川沿いに回遊可能な仮設階段・散策路の設置、歴史館西側道路の歩行者天国化、滞留空間づくり、石垣・樹木を照らす夜間照明設置を実施した。
- ・利用ニーズ、回遊性、交通影響、地域合意等を検証。
- ・階段・散策路：11月13日(木)～11月30日(日)9:00-17:00
- ・歩行者天国化：10月4日(土)～11月3日(月・祝) 土日祝 9:00-17:00
- ・夜間照明：10月8日(水)～1月18日(日)17:00-22:00
- ・滞留空間設置：10月4日(土)～ ※継続中



仮設の階段・散策路で城跡周辺を回遊



石垣を下から見上げる貴重な場所

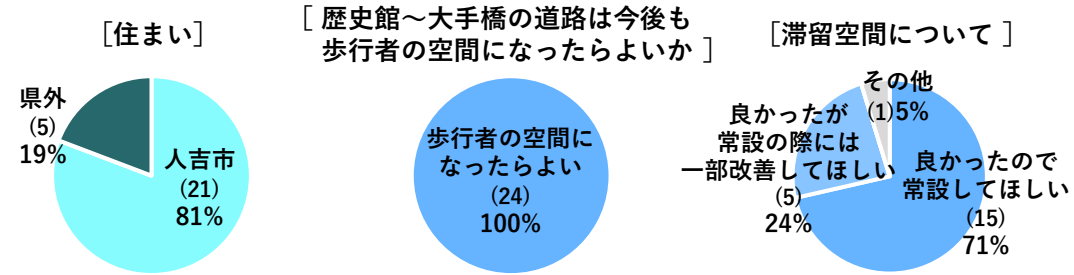


石垣・樹木の照明による幻想的な景観

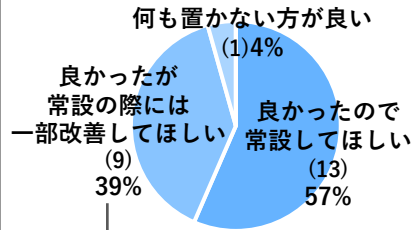


球磨川を臨むベンチの利用率は高かった

○検証結果【来場者アンケート調査】(n=26)



[階段・散策路は今後も設置した方がよいか]



揺れ等の安全性に関する改善意向であったが、仮設物であったため本設の際には改善可能。

【階段・散策路利用者数調査】

平日：11/14(金)	休日：11/15(土)
総数：26人 (3人/h)	総数：64人 (8人/h)

階段・散策路・夜間照明の常設意向あり。散策路は石垣を下から眺められる点、照明は大橋や城見庭園等から見る幻想的な景観が好評だった。

○今後の方向性

- ・ **新設階段、散策路：常設化に向けた検討を行う。**文化庁、河川管理者(国、県)との協議や、整備/維持管理方法・主体等の検討が必要。
- ・ それに合わせて、**散策路から胸川対岸をつなぐ飛び石の設置、老神社社側へ上る既存階段改修についても検討を行う。**
- ・ **歩行者天国化、滞留空間：**石垣補修工事との兼ね合いで週末のみの歩行者天国となり道路を活用した滞留空間づくりができず、仮設階段の設置時期ともずれが生じたため、想定していた効果検証が実施できなかった。R8年度に「史跡人吉城跡保存活用計画」策定に向けた検討のなかで将来の人吉城跡のゾーニングを検討し、**R9年度にそのゾーニング案を踏まえた社会実験を改めて実施する。**
- ・ **夜間照明：河川区域外(樹木ライトアップ)は常設する。**河川区域内(石垣ライトアップ)の常設方法は増水リスクも踏まえ要検討。
- ・ ふるさと歴史の広場のイベント利用受入について条件を整理する。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

[担い手：北 貴之さん・一般社団法人らぞLABO]

- ・復興への具体的な第一歩を踏み出す1年として人吉球磨の魅力を感じ、人吉球磨初の野外音楽フェスを開催。
- ・利用ニーズ、収益性、地域合意等を検証。
- ・チケット販売数 約1,200枚

期間：2025年10月11日(土) 9:00開場 / 11:00 - 19:00



Rural Act(ルーラルアクト)人吉球磨の野外フェス

51 投稿	1,011 フォロワー	322 フォロー中
----------	----------------	--------------

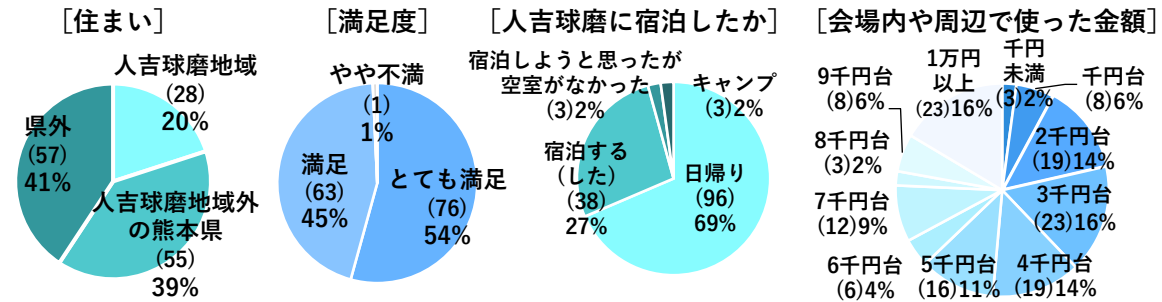
公式アカウント
人吉球磨で初の大型野外フェスを開催しました。
ご来場いただきありがとうございます。
【本事業はくまもと未来づくりスタートアップ補助金を活用しております】

#ruralact25 #ルーラルアクト #ルーラルアクト25

ruralact.com

○検証結果

【来場者アンケート調査】(n=140)



人吉球磨以外の来場者も多く、満足度は非常に高かったため、99%が次回開催を希望している。約3割が宿泊し、来場者の一定の消費も見られた。

【主催者ヒアリング】

- ・当初は中川原公園での実施を考えていたが、大橋から公園に下りる動線がスロープ一つしかなく演者がステージに行くまでの独立動線の確保ができないこと、控室がないこと、ステージ設置の予算、増水時のリスク等を踏まえ、会場をふるさと歴史のひろばに変更した。中川原公園でこの規模のステージ・音響を伴うイベントはリスクが大きく困難である。
- ・収益としては厳しかった。入場料以外の収益をいかにあげられるか。次回は黒字化を目指したい。
- ・予算の関係上、駐車場からのシャトルバスができなかった。駐車場の場所がわかりにくかったことは反省点。
- ・公式HPの総PV数13,016回、Instagramフォロワー数1,011名、総リーチ数296,218、複数の全国メディアにも取り上げられ、人吉の魅力を発信することができた。
- ・地元でフェスがあり中高生に体験してもらうことで、いずれ人吉に帰ってきてなにかやろうにつながると良い。今回は中学生は無料とした。
- ・来年度も同じ場所で実施したい。今回実績ができたため、広報を強化して2,000人を目指したい。
- ・実施に関するクレーム等はなかった。

来年度、黒字化を目指し、同じ場所での実施意向あり。

<行政運営事業(城跡・まちなか全体)としての検証結果>

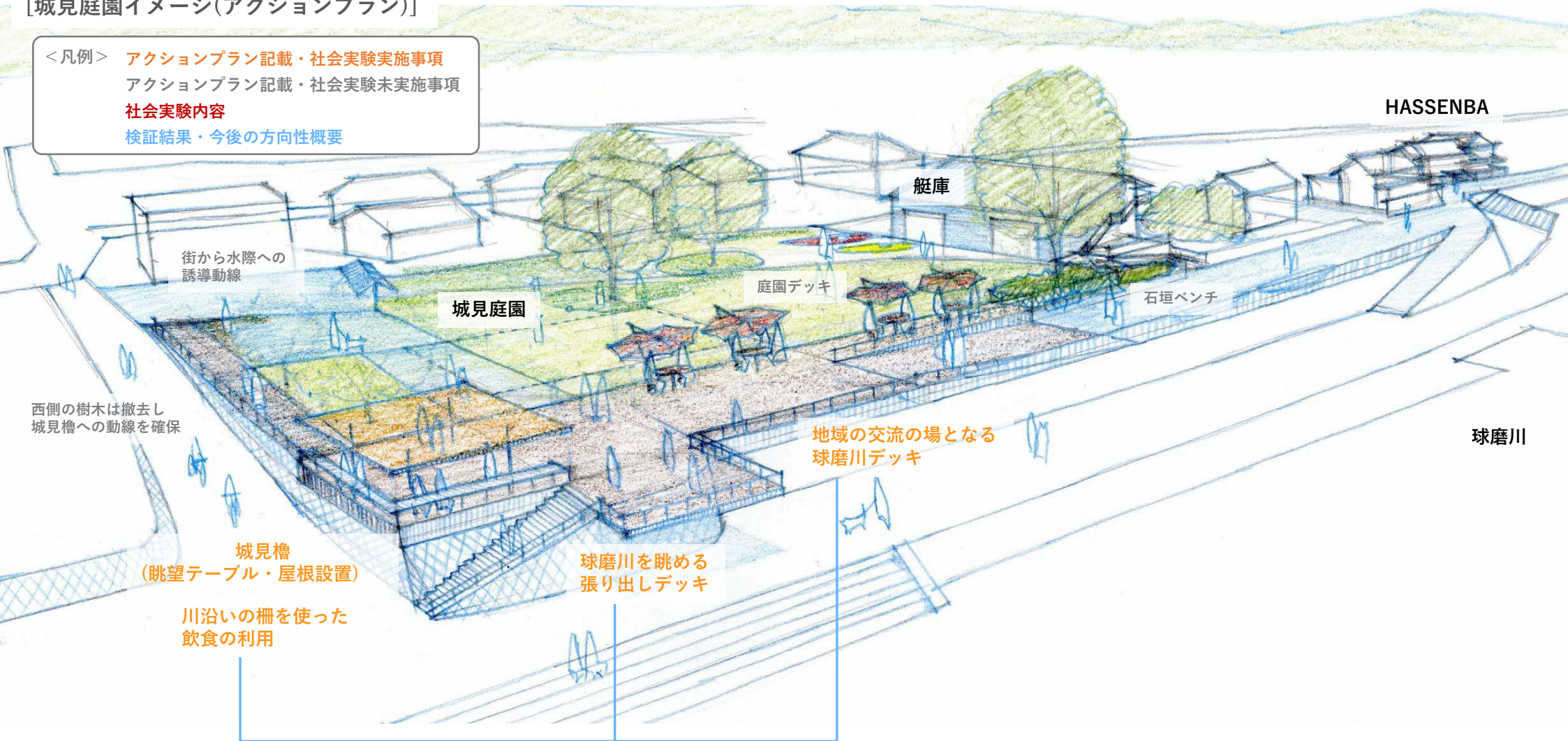
- ・まちなかでこの規模のステージ・音響を伴うイベントが実施可能な場所として、中川原公園はリスクが高く難しく、ふるさと歴史の広場に限られることがわかった。

○今後の方向性

・来年度も実施する方向で検討する。実施場所について、ふるさと歴史の広場を活用できるか市と検討・協議を行う。

[城見庭園イメージ(アクションプラン)]

- <凡例> **アクションプラン記載・社会実験実施事項**
 アクションプラン記載・社会実験未実施事項
社会実験内容
 検証結果・今後の方向性概要



[城見デッキ・櫓・夜間照明設置]

- ・地域、利用者の常設意向あり
- ・来年度当初に社会実験検証結果を地域関係者に共有し、設計に入っていくことを説明。
- 同意を得た後に、常設に向けた設計を地域住民等と対話をしながら進めていく。

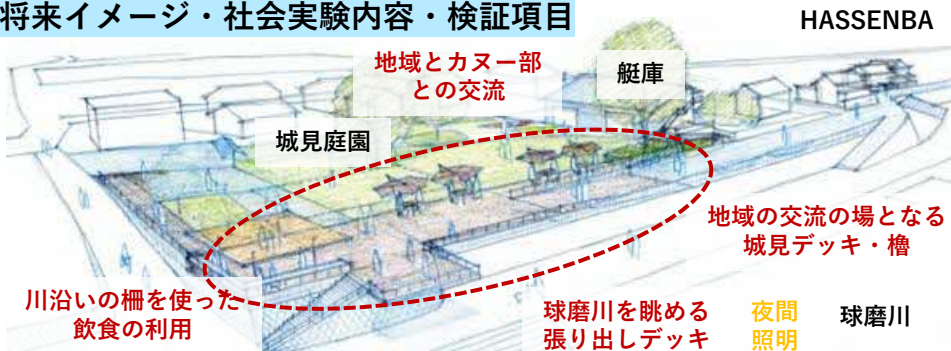
[地域とカヌー部との交流]

- ・カヌー部生徒・保護者・周辺住民の方々との清掃活動は継続実施。

背景・目的

- 令和2年7月豪雨災害後にカヌー艇庫やコミュニティ施設の整備に向けた動きがあったが、昨年度地域と協議し、トイレを含む建物は作らず、城見庭園と同じレベルにデッキを整備し、良好な景観を確保する方針で進めてきた。
- 今年度の社会実験では、将来イメージのようなデッキ等を設け、日常時の使われ方や維持管理等について検証することを目的に実施した。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



- 将来の常設を見据え、部分的に城見デッキ・檣・夜間照明を仮設で設置。地域合意、設え・利用ニーズなどを検証。
- 期間：2025年10月14日(火)～11月9日(日)

仮設の城見デッキ・檣：休憩・眺望スポット



遊歩道にもあかりが灯る



張り出しデッキから対岸の石垣を眺める



地域とカヌー部との交流を目的に地域・高校カヌー部による清掃活動を実施
2025年11月9日(日)

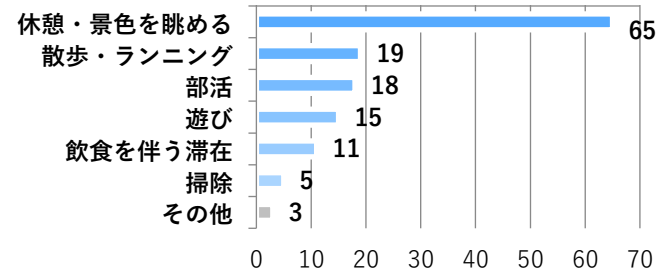
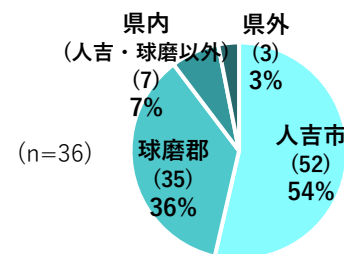
○検証結果【来場者・地域アンケート調査】

全体計n=116

(周辺町内会：19,カヌー部：61,一般利用：36)

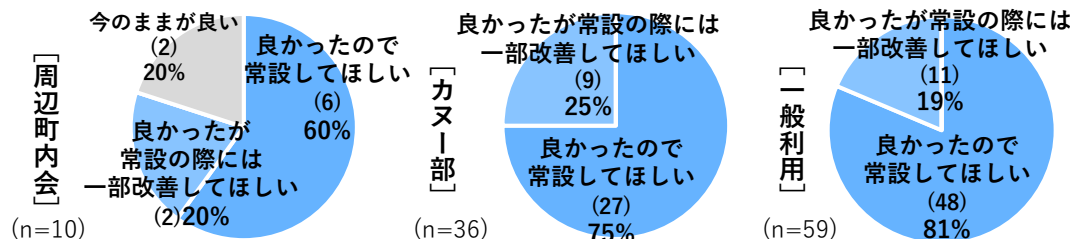
[住まい] (n=97)

[なにをしたか] (n=104)



市内・球磨郡の方の休憩・景色を眺める行動が多く見られた

[木製デッキ・あずまや・夜間景観を今後常設した方が良いと思うか]

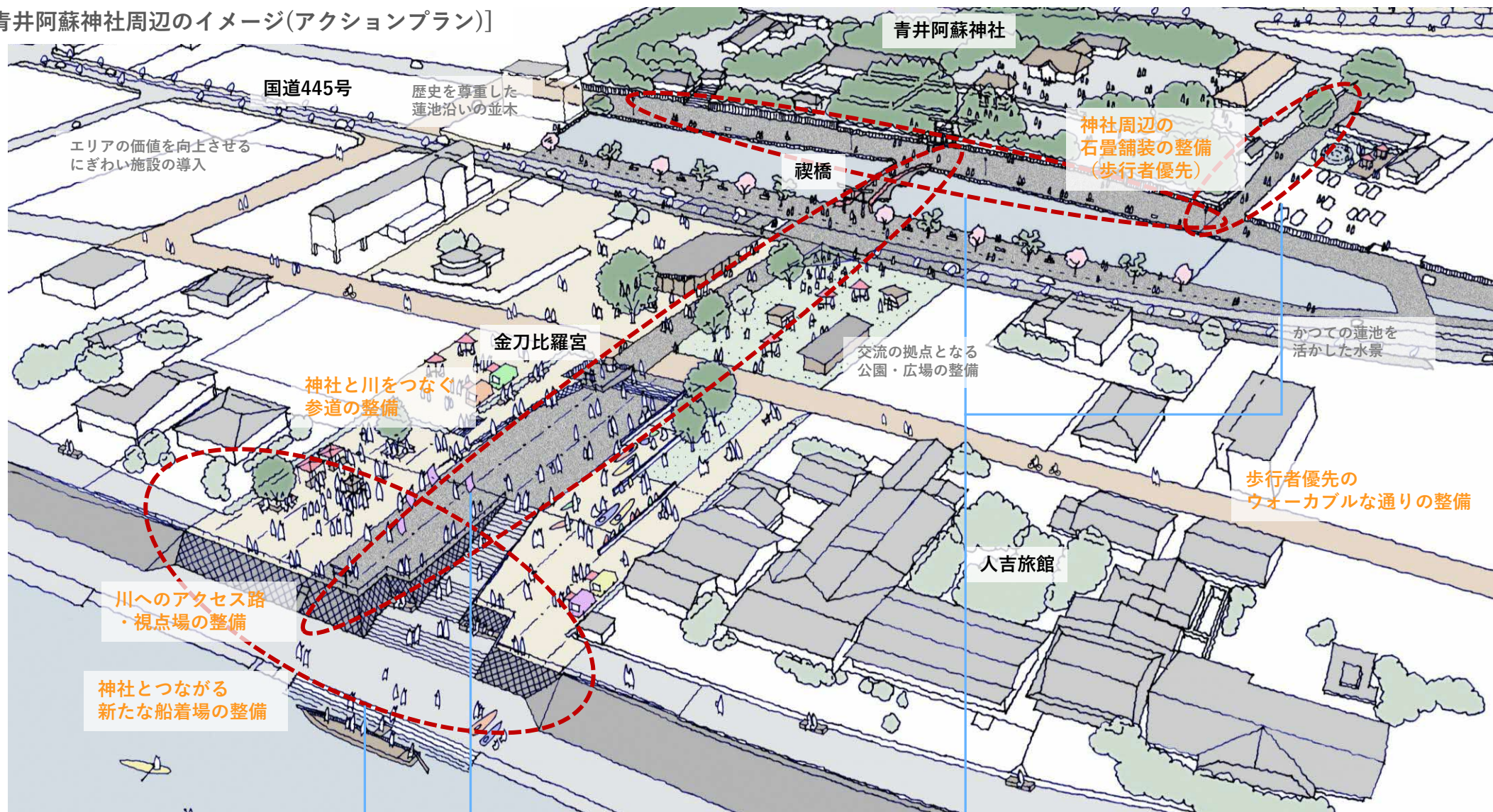


町内会・カヌー部・利用者いずれも総じて常設化の意向あり。球磨川の夕刻をダイナミックに楽しめる環境となることが把握できた。

○今後の方向性

- これまで地域と協議し、アクションプラン記載のとおり、トイレを含む建物は作らず、デッキを整備し、良好な景観を確保する方針で進めてきた。
- 来年度当初に今回の社会実験の検証結果を地域住民に共有し、設計に入っていくことを説明。同意を得た後に、**上記方針を踏襲し、城見庭園も含めて城見デッキ・檣・夜間照明等の常設に向けた設計を地域住民等と対話をしながら進めていく。**
- 特にカヌー部活動範囲と滞留空間の棲み分けについては今後要検討。
- カヌー部生徒・保護者・周辺住民の方々との**清掃活動は継続実施。**

[青井阿蘇神社周辺のイメージ(アクションプラン)]



[神社と川をつなぐ参道の設え・一部歩行者天国化]

[川へのアクセス階段・視点場・船着き場設置]

- ・参道軸線のデザイン効果は高く、常設化意向あり
- ・常設化に向け、周辺の広場やまちなみと一体となった参道のストーリーや設え・環境整備設計を継続検討

[あかり]

- ・照明は大きな効果あり。場所に応じた照明効果の点在検討。
- ・蓮池周辺は青井阿蘇神社と継続協議。
- ・川につながる道の明るさ確保。

[神社南・東道路の歩行者天国化]

- ・地域住民、観光客ともに安全に歩けることは好評。歩行者天国化への意向あり。
- ・常設に向けて検討を進め、併せて地域課題解消を図る。

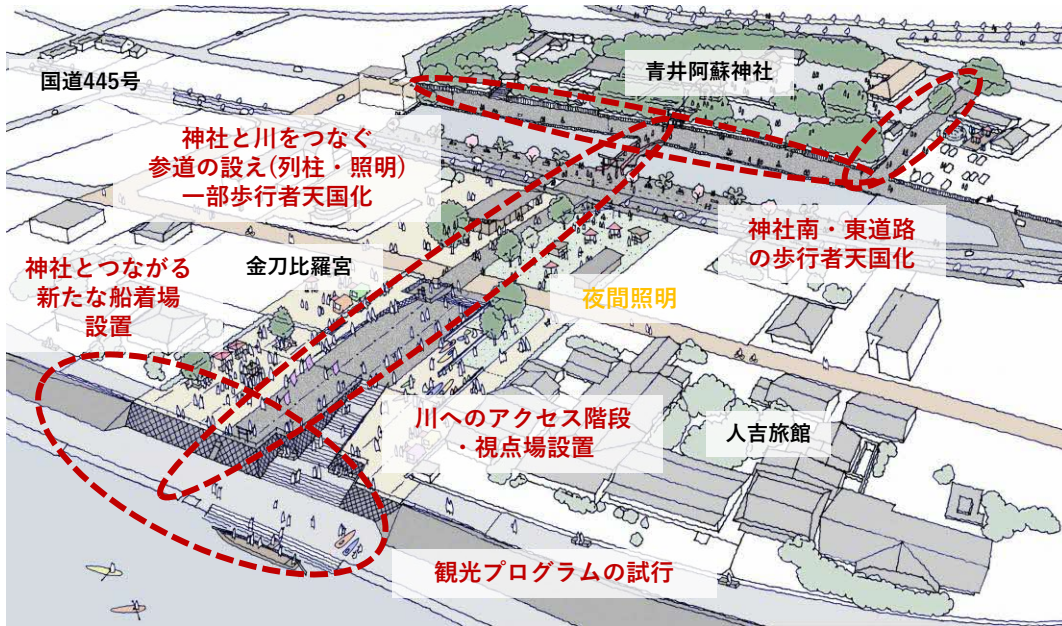
[観光プログラムの試行]

- ・球磨川くだりとの連動は継続検討、実施。

背景・目的

- ・青井阿蘇神社周辺では、区画整理事業と連動し、神社と球磨川をつなぐ参道や川への階段、視点場、船着き場等の整備といった検討がこれまでなされてきた。
- ・その将来像実現に向け、今年度はハードの設計に進むための空間再編内容やデザイン、地域合意等を検証すべく、神社と川をつなぐ仮設の参道設置や照明による参道の視覚化、神社周辺の歩行者天国化等を実施することとなった。

○将来イメージ・社会実験内容・検証項目



- ・将来の常設を見据え、神社と川をつなぐ参道の設え(列柱・照明)、川へのアクセス階段・視点場、船着き場の設置と、神社南・東道路の歩行者天国化を実施した。
- ・設え、地域合意、交通影響・運営方法等を検証した。
- ・観光コンテンツの創出に向け、球磨川くだりや文化・芸能、食等と連携した観光プログラムの試行も合わせて行った。

○青井阿蘇神社周辺の空間再編 10月1日(土)～1月18日(日)

- ・神社と川をつなぐ参道の設え
 - ・列柱の設置
 - ・夜間照明の設置 ※球磨川～青井阿蘇神社周辺は10月28日(火)～
 - ・参道一部歩行者天国化
 - ・川へのアクセス階段・視点場設置
 - ・新たな船着場設置
- ・神社南・東道路の歩行者天国化

○観光プログラムの試行 11月22日(土)、12月13日(土)、1月17日(土)



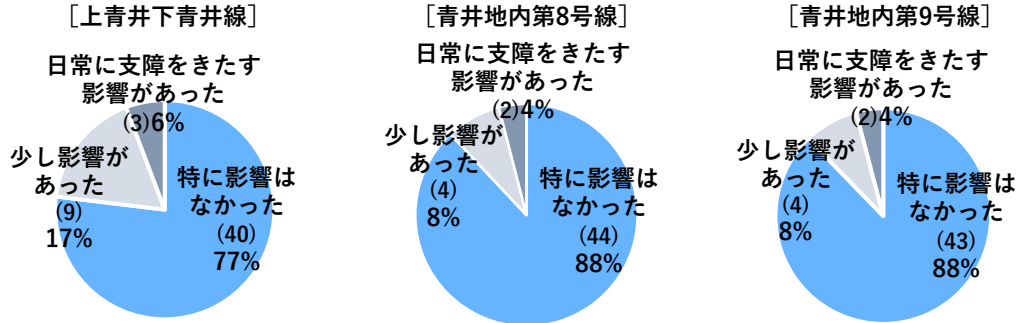
○検証結果

○神社南・東道路、参道一部の歩行者天国化

- ・特に事故等なく、交通影響は見られなかった。

【地域住民・事業者アンケート調査】(n=55)

[道路が通れなくなったことで日常の移動や行動に何か影響はあったか]



<具体的な支障が出た場面(抜粋)>

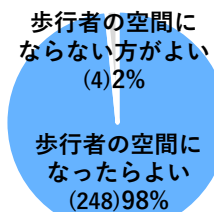
- ・国道445号に出る際に交通量も多いので出にくかった。
- ・抜け道が一本少なくなったことで、他の住民の方の車とすれ違うことが多く、道も狭いことから離合しないといけなことが度々あり、スムーズに家に帰れないこともあった。
- ・家の前が渋滞したことで家から出る時間が遅れることなどがあった。
- ・国道445号がより混雑した。

<車両通行止めに対する意見(抜粋)>

- ・車が来ないので安心して散歩できた。
- ・こどもの登下校通路なので、車が通らないおかげで不安が減った。
- ・上青井下青井線の舗石の音がなくなり静かになった。
- ・歩行者天国化することで、特に夜間、深夜の安全がかえって悪くなるような気がします。

【来場者アンケート調査】

[今後も歩行者の空間になったらよいか] (n=283)



- ・地域住民、観光客ともに安全に歩けることは好評であり、今後の歩行者天国化への意向も多かった。
- ・一方で日常生活への影響も少し見受けられたため、運用や周知など、解決策の検討が必要である。

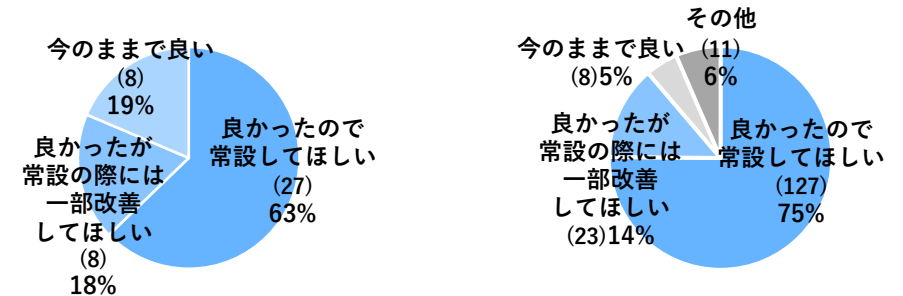
○神社と川をつなぐ参道の設え

【地域住民・事業者アンケート調査】(n=55) 【来場者アンケート調査】(n=283)

[参道としての雰囲気を感じたか]



[階段・視点場、参道、あかりを常設にした方が良いと思うか]



- ・列柱の意図がわからない、伝わっていないという意見が見られた。
- ・球磨川近くや参道沿いに滞留空間設置の意向が見られた。

- ・参道の雰囲気を感じた方が約6-8割、階段・視点場・参道・あかりの常設化の意向が約8-9割であった。
- ・ライトアップが好評であった。

○今後の方向性

○参道の設え

- ・常設化に向け、周辺の広場やまちなみと一体となった参道のストーリーや設え・環境整備設計を継続検討する。

○歩行者天国化

- ・常設に向けて検討を進め、併せて地域課題解消を図っていく。

○球磨川くだりとの連動は継続検討、実施。

あかりの社会実験

社会実験内容・検証項目

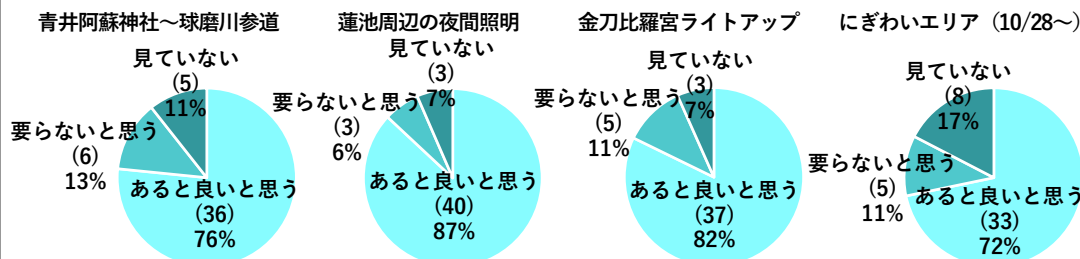
- ・河川域と青井阿蘇神社をつなぐ参道を、照明により視覚的につなぐ実験の実施【スロープの間接照明】【細街路に行灯型照明の配置】【御柱のライトアップ】【スポットライトによる参道や広場の照射】【球磨川鳥居のライトアップ】
- ・青井阿蘇神社周辺の観光まちづくり視点からの夜間景観の磨き上げ【禊橋への間接照明設置】【蓮池周辺への足元照明の設置】【春日灯籠の設置】【金毘羅宮のライトアップ】【国道側鳥居・石燈籠のライトアップ】
- ・広場周辺の夜間環境の考察【広場への行灯照明設置】【広場や将来施設からのビューの確認】
- ・護岸整備に伴う河川域の夜間景観検討【護岸上部からの高水敷遊歩道への投光】【デッキ間接照明】【船着場のあかり】

実施状況と考察



検証結果 【来場者アンケート調査】(n=46)

- ・青井エリアのライトアップは「あると良いと思う」が多かった。
- ・蓮池周辺の夜間照明が「あると良いと思う」は87%で、最も多かった。



今後の方向性

- ①球磨川と青井阿蘇神社をつなぐ空間づくりに照明整備は大きな効果がある。特に、金刀比羅宮のライトアップ、視覚的に点在するあかり、参道工作物（実験では御柱）への照明効果など、場所に応じた照明効果を点在させることを整備時には検討することが望ましいと思われる。
- ②禊橋および国道445号側鳥居・蓮池周辺へのあかりの設置は、青井阿蘇神社周辺環境として必要であり、青井阿蘇神社との協議を引き続き継続する。
- ③春日灯籠型の公共照明も要素として検討できることがわかった。
- ④河川につながる道の明るさの確保は必要である。
- ⑤船着場周辺への護岸上部からの投光は効果があるので護岸整備計画の中でも検討する。

背景・目的

- ・昨年度からの検討や担い手WSを通じ、まちなかで誰もが気軽に立ち寄り、憩い、交流できる居場所づくりが必要という課題があった。
- ・今年度の社会実験では、肥後銀行人吉支店1階を賃貸し、図書機能をもつサードプレイスを期間限定で運営することによって、利用ニーズ、運営体制などを検証することを目的に実施した。

社会実験内容・検証項目

[担い手：人吉に新図書館をつくる会]

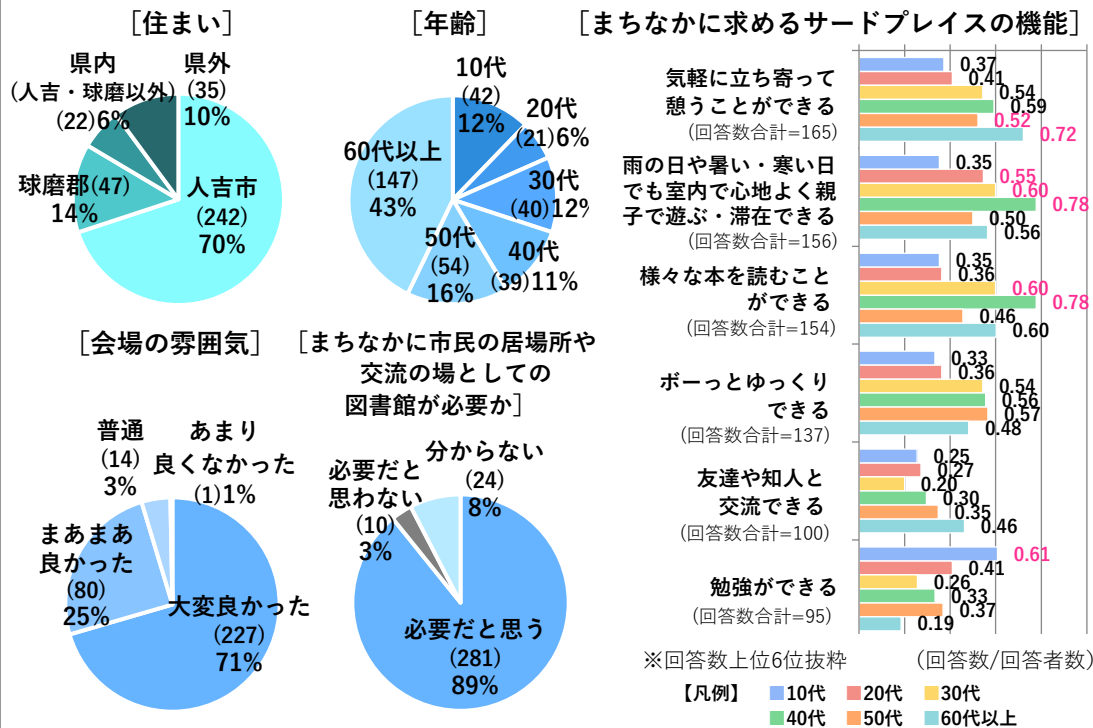
- ・肥後銀行人吉支店1階を、誰もが気軽に立ち寄り、憩い、交流できるサードプレイスとして運営。
- ・ひとはこオーナー66人による選書が楽しめる図書館、自習スペースなどを運営。
- ・利用ニーズ、運営体制などを検証。
2025年8月2日(土)～10月31日(金) 9:00-18:00
- ・入館者数 約4,500人
- ・本棚オーナー数 69箱68名 ・収蔵図書総数 1,751冊 (受入時点)
- ・イベント実施回数 27回 (うち流域治水4回)

[施設・実施内容]

- ①本棚
- ②滞留・仕事スペース
- ③学習スペース：4テーブル13席
- ④展示スペース：ギャラリー、展示
- ⑤イベントスペース
- ⑥熊本県立大学「共創流域治水PJ」展示スペース



検証結果 【来場者アンケート調査】 (n=346)



・まちなかの屋の顔／サードプレイスのニーズが大きい。
 ・子どもから年配の世代まで、多世代からの支持を得た。
 ・立地、外からの視認性、適度な規模感が好評だった。
 ・市民有志の顔の見える運営が寛容で利用しやすい雰囲気をつくった。
 ・本があることで交流や滞在が促進された。

今後の方向性

- ・肥後銀行1階を活用、市と民間の共同運営、図書機能を持つサードプレイスの常設化へ。その際に、下記を大事に考える。
 - ・市として場所の確保や図書館との連携を図り、主体的に関わる。
 - ・運営者の顔が見える寛容で利用しやすい雰囲気。
 - ・運営の意志のある多様な分野・立場の人が一緒に場をつくり、運営する。
 - ・オープンで誰にでも開かれていること。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

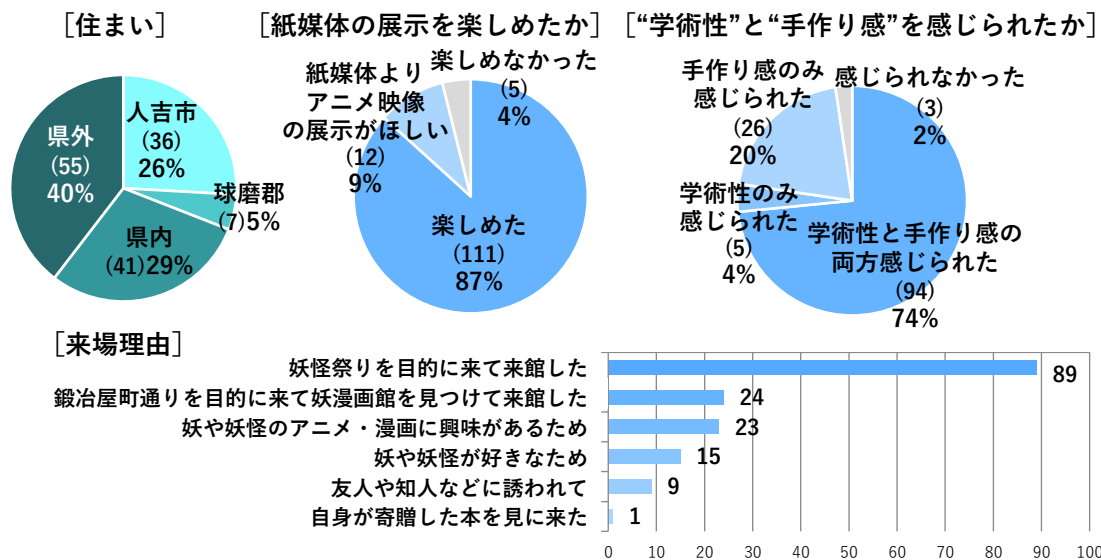
【担い手：立山茂さん・鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会】

- ・鍛冶屋町通り沿いにある美術館「Chobit」の建物を活用し「妖漫画館」という新たなコンテンツを企画・開始。妖怪／妖に関わるマンガなどを展示。
- ・利用ニーズ、運営体制などを検証。

期間：2025年11月15日(土)開館 毎日・11:00-16:00 (予定)



○検証結果 【来場者アンケート調査】 (n=139：2026年2月12日時点)



人吉球磨以外の来場も多く、好評な意見が多く見られた。

【主催者ヒアリング】

- ・読むわけではなく、見る漫画館。懐かしがってもらい、このまちは夏目友人帳を大事にしているということが伝わるとよい。
- ・熊本大学と一緒に取り組んでおり、手作り感と学術性を大事にしている。
- ・開館して、集客ができたこと、みんなの協力のもとできたこと、みんながよいと言ってくれたこと、若者と地元が噛み合ってきたこと、今後やりたいことが見えてきたこと、新しくやれたことがあったことが良かった。
- ・施設の開閉が大変である。鍛冶屋町通りの6者で、1週間ずつ担当を交代しながら運営している。
- ・今後の運営方法は、やりながら検討を進めていきたい。

運営のやり方については、実施しながら検討・改善していく。

○今後の方向性

- ・継続して妖漫画館を運営する。
- ・運営体制・方法は、運営のなかで出てくる課題等をふまえながら精査していく。(複数ある本は読めるようにする／特定の欲しいマンガを募集する／漫画館の看板を熊大と協力して作るなど)

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

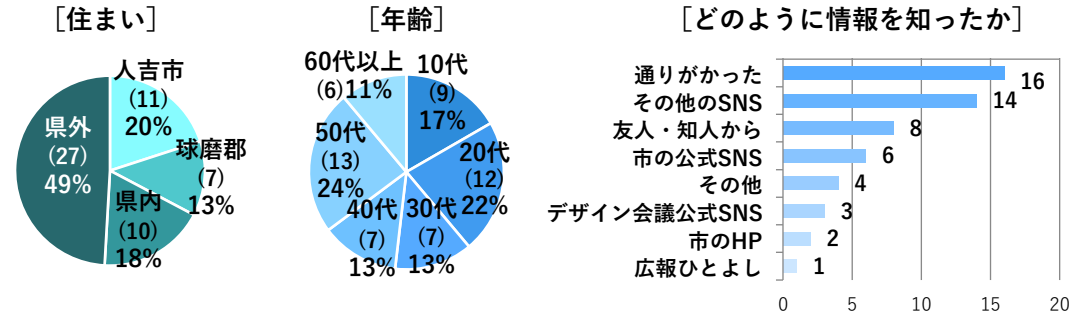
社会実験内容・検証項目

【担い手：石垣 亮平さん・緒方 健さん】

- ・人吉球磨地域で多く撮影を行う写真家中村紫苑さんの写真展を人吉駅待合室で実施。
 - ・漫画・アニメの作者や声優等の関係者に向けたメッセージを書く付箋台を設置。
 - ・利用ニーズ、利用者属性などを検証。
- 期間：2025年8月1日(金)～8月31日(日) 9:00-17:00



検証結果 【来場者アンケート調査】 (n=124)



県外からの来場が半数ほどで、通りがかって来場する方も多かった。

【主催者ヒアリング】

- ・アニメの作者や声優等の関係者に対して感謝を伝える企画を検討していた。そのなかで、花火大会でのクラウドファンディングを実施することとなり、それと連動するかたちで写真展を実施した。人吉駅は玄関口でもあり、観光協会もあるためアニメファンは立ち寄る場所。
- ・8月は夏目友人帳ファンが一番多く来るため、聖地の写真を展示した。
- ・滞在中に写真が増えていくかたちで、20枚程は期間中に更新した。
- ・常に誰かしら来場者がいた。メッセージを書く付箋が300程集まった。外国人、子ども、観光客、地元の方々も見られた。
- ・5名のメンバーで企画・運営した。
- ・SNS以外でどう発信するかが課題だった。
- ・駅舎で物販の許可が下りなかった。クラファンで運営費を賄えたが、それがないとなると、駅舎の活用は難しいのではないかと感じた。

幅広い属性の方が来場された。SNS以外での発信方法に課題を感じた。

今後の方向性

- ・今後も漫画・アニメのファン、作者等関係者に向けた取組みを検討する。具体的な企画は未定。

背景

・昨年度の担い手WSから生まれたアイデアを実現するために実施することとなった

社会実験内容・検証項目

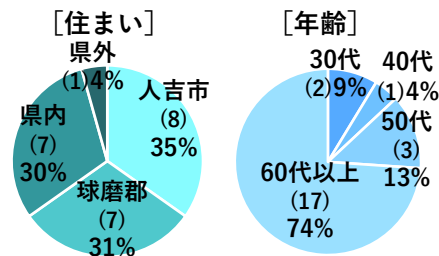
【担い手：坂本 克彦さん・白石 忠志さん・フットパス相良路】

- ・相良藩城下町の歴史を感じるフットパスをみんなで歩き、ゴールの中川原公園でランチ。
- ・利用ニーズなどを検証。
- ・フットパス相良路スタッフ7名で運営。
- ・参加者29名
- ・参加費一人1,500円（保険料・おやつ・弁当代）
- ・コース：城跡、胸川散策路、球磨川沿い、城見庭園、鍛冶屋町通り、大橋など。

期間：2025年10月26日(日) 10:00-12:00



検証結果 【来場者アンケート調査】 (n=23)



<良い印象>

・日頃気に留めず、通り過ぎていた場所も歩いてみると、魅力的に感じた。また参加したい。

・胸川沿いから見上げる大手門からの石垣

<良くない印象>

・説明の音が時々聞こえなかった。

・次から次へと急かされた感じがした。

市外も含め、60代以上の方が多く参加され、好評であった。

【主催者ヒアリング】

- ・これまで実施していたまちなかフットパスコースに、胸川・球磨川の散策路と城見庭園デッキが設置され、社会実験の企画を取り入れて実施したことで、人吉の違った新しい景色を見ることができた。
- ・特に城の石垣を下から見上げられてよかったという感想が多かった。
- ・フットパスを通して、まちの復興状況を知ってもらえたことも良かった。
- ・球磨川に設定予定であった階段が設置されず、胸川と城跡を回遊することができなかったことが残念。
- ・今後も人吉球磨でフットパスを実施予定。くま鉄の再開に合わせて、フットパスをできればよいと考えている。
- ・人吉球磨外に広く知ってもらいたい。
- ・子どもでも歩けるコースづくりに配慮している。幅広い年代に来てもらえるとうい。

社会実験と連動することで新たな景色(下から見上げる石垣、城見庭園の張り出しデッキからの眺望)が見られて良かった。今後もフットパスを継続して実施予定。

今後の方向性

- ・今後も人吉球磨地域でフットパスを継続して実施予定。

背景・目的

- ・まちなかでは、人吉駅の鉄道運行再開まで時間を要する中、じゅぐりっと号の利用状況の低迷、来街者用の駐車場の不足、人吉IC～まちなかの移動手段の不足などの交通課題がみられる。
- ・下図のアクションプランに示した基本的な考え方にに基づき、既存の公共交通、駐車場、シェアサイクルを組み合わせたモビリティハブを形成・試行することで、移動手段の充実を図ることを目指し、種々の取組を実施した。
(人吉IC、人吉城跡、人吉市役所、くまりばにシェアサイクルポートを増設)

【主な現状・課題】

- IC、くま川鉄道とも連携(バスによる代替輸送)
- まちなかから離れた人吉ICでの高速バス接続(じゅぐりっと号による人吉駅～人吉IC間の接続している高速バスをカバーしきれていない)
- クルマ移動が中心の公共交通の利用者が減少(バス、タクシーとも運転手が不足)

【交通・駐車場・モビリティの考え方】

公共交通を強化・補完し、まちなか各所のアクティビティとモビリティの統合的サービスを図る～市民生活の利便性と来街者の回遊性を高める「Maas」の展開～

- ①各交通モード間の乗り換えをスムーズに行うことができる「モビリティ・ハブ」を要所を整備し、自分のペースでゆっくりとまちなかを回遊・休憩できる交通インフラを形成します。
- ②自動運転やAI等の新技術を取り入れ、時代に合った交通システムへとアップデートします。
- ③来街者の駐車場については、将来の需要を想定し、新規確保を検討します。
- ④シェアサイクルについては、既存のリソースの有効活用を前提としながら、公衆連携による持続可能な運営方式を検討します。
- ⑤まちなかの回遊動線を充実するため、道路舗装の美観化や歩行空間・自転車通行空間の整備、シェアドスペース等の採用によるクルマの速度低減等を図ります。

▼Maas: Mobility as a Serviceの概観

▼モビリティハブイメージ(フランス・ボルドー)

▼大橋の歩行者専用化イメージ(金沢市)

▼シェアドスペースイメージ(フランス・パリ)

▼自動運転バスイメージ(岐阜市)



○取組内容・検証結果

①シェアサイクル利用状況の確認・分析

- ・旅館を中心に展開しているシェアサイクルについて、上記4箇所のポートを増設した結果、利用回数が大幅に増加。特に、人吉IC～まちなか間の片道移動が増加し、二次交通としての役割を担える可能性を確認。
- ・シェアサイクル利用者のGPS位置情報で移動経路を確認した結果、まちなかの回遊だけではなく、広域的に移動していることを確認。

▼シェアサイクル利用回数

	利用回数	前年同月比
10月	140回	197%
11月	99回	141%
12月	63回	300%

- ・自転車台数：30台(10台増車)
- ・サイクルポート数：9箇所(4箇所増設)
- ・利用料金：200円/15分、4,000円/12時間
- ・システム：ハローサイクリング(OpenStreet株)
- ・運営会社：つばめ交通株

②駐車場調査の実施

- ・中川原公園(大橋)を中心に半径500m圏内の公共駐車場は、人吉城跡⑤～⑨と札の辻駐車場⑩であり、合計で約200台程度の収容量がある。500m圏外では、人吉駅前、青井阿蘇神社、人吉市役所で約200台程度の収容量がある。
- ・10/12(日)中川原公園における「球磨川マルシェ」開催日、10/26(日)大橋通行止めにあわせた「おおはしひろば」開催日に駐車場台数調査を実施。
- ・11/16(日)SL人吉・鉄道フェスでも駐車場調査を実施。イベント時、当初の臨時駐車場が満車となったため、新たに臨時駐車場を用意し対応。
- ・調査の結果、イベント実施時でも大きな混乱はなく、駐車場が大幅に不足する事態はみられなかった。
- ・大規模駐車場の新設の必要性は低いものの、現状の台数確保は必須と考えられる。

③情報発信との連携

- ・「まちの編集室」でシェアサイクルを活用したおすすめルートを提案。
- ・人吉駅前、人吉城跡、札の辻の各駐車場を「まちなか公共駐車場」として公開。

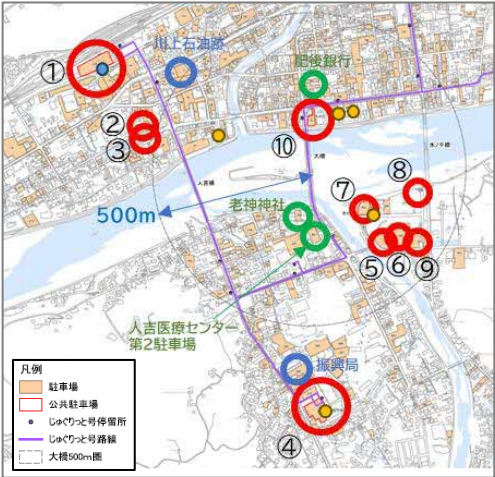
○今後の方向性

- ・じゅぐりっと号を含む公共交通全般については、令和9年度の地域公共交通計画の改定を見据え更なる充実を図る。
- ・シェアサイクルの充実に向けて、社会実験結果や運営経費等をもとに事業収支を試算し、官民連携の方向性を具体化。
- ・人吉駅前や人吉城跡の再整備の方向性を踏まえ、同規模の代替駐車場の確保に向けたロードマップを作成し、協議・調整を進める。

▼シェアサイクル利用者の移動経路



▼駐車場調査位置図



①人吉駅前駐車場	60台(無料)
②青井阿蘇神社	37台(無料)
③青井阿蘇神社(蓮池横)	12台(無料)
④人吉市役所	約100台(無料)
⑤人吉城跡(観光駐車場)	40台(無料)
⑥人吉城跡(市駐車場)	約100台(無料)
⑦人吉城跡(歴史館横)	約35台(無料)
⑧人吉城跡(水の手橋詰め)	5台(無料)
⑨人吉城跡(元湯側)	12台(無料)
⑩札の辻駐車場	20台(有料)